見つめなおす街道文化

出あい・ふれあい・にぎわいのまち

御嶽宿地域再生構想

平成 20 年 3 月

御　嵩　町

・

御嶽宿地域再生まちづくり住民会議

御嶽宿地域再生構想の策定にあたって

今、あちらこちらで少子高齢社会の進展や産業構造の変化等が起こり、様々な問題が生じています。例えば、少子高齢による地域の労働力が減少していますし、核家族化の進展により地域との関わりが少なくなってきています。そうした中、子どもや若い人が減少傾向となり、商店街などまちの中心部のにぎわいが薄れるなど地域にあまり元気がないという声が聞かれます。これはわが町御嵩町でも例外ではありません。

一方、御嵩町は、江戸時代には主要街道「中山道」が東西に走り、多くの人・物・情報が行き交いにぎわいもありました。中山道の宿場の１つである御嶽宿周辺には、歴史資源をはじめさまざまな多くの資源があります。また、御嵩町には、住民で組織するいろいろな多くの団体があり、ボランティアや地域活動に積極的な活動が見られます。

今、国の「地域再生のための基本指針」でもありますように地域自らの知恵と工夫により、地域自ら考え行動して地域の活性化を実現していくことが求められています。住民と行政が「協働のまちづくり」を目指しながら御嶽宿をはじめ町内の多くの資源を活用して、住民同士が、また御嵩町に訪れる来訪者と活発に交流し、御嶽宿地域をはじめ御嵩町全体が活気のあるまちとなり「住んでみたい、住み続けたい町＝御嵩町」となるようこの御嶽宿地域再生構想を策定しました。

この構想の策定にあたり、長期間にわたり検討を重ね、また具体的な取組みをしながら実現可能な構想づくりをしていただきました御嶽宿地域再生まちづくり住民会議のみなさまをはじめ、アンケート調査等により貴重なご意見をいただきましたみなさまに心からお礼を申し上げます。

平成２０年3月

御嵩町長　　渡　辺　公　夫

目　　次

序章　はじめに ---------- 1

１．背景 1

第１章　御嶽宿地域の特性と課題 ---------- 2

１．御嶽宿地域の歴史 2
２．これまでの取組み 3
３．御嶽宿地域の課題と活用すべき特性 5

第２章　御嶽宿地域再生の方針と将来像 ---------- 8

１．まちづくりの方針 8
２．御嶽宿地域再生の方向と将来像 9
３．御嶽宿地域再生の目標 9

第３章　御嶽宿地域再生の具体的な取組みと内容 ---------- １５

取組み１　駅周辺の拠点づくり 15
取組み２　魅力商品づくり 16
取組み３　町並景観・にぎわいづくり 17
取組み４　案内サイン・マップづくり 18
取組み５　周辺環境の魅力づくり 18
取組み６　誘客戦略づくり 19
取組み７　おもてなし人材・組織づくり 20

第４章　御嶽宿地域再生の推進に向けて ---------- ２１

１．住民活動支援組織と住民活動交流拠点施設 21
２．まちづくり活動の充実 23

参考資料

参考資料１　重点的な取組みと行動スケジュール ----------２６

１．重点的取組みの考え方 26
２．行動スケジュール（案） 27

参考資料２　意識調査結果 ----------２９

１．「御嶽宿の再生に向けての意識調査」集計結果..... 29
２．「御嶽宿の再生に向けての高校生意識調査」集計結果..... 41

参考資料３　構想の検討体制 ----------５０

参考資料４　構想の主な検討経過 ----------５１

序章　はじめに

1 背景

中山道の宿場町であった御嶽宿は、東西交通の要衝の地として古代から近世に開けて、人々が行き交い、出会う場でした。

御嶽宿には、当時の様子が偲ばれる本陣と商屋竹屋など格子戸の残る古い町並みが、そして中山道沿線には願興寺や愚渓寺、春日神社など由緒ある寺社、牛の鼻かけ坂や石畳などの街道の姿を彷彿させる経路や謡坂、諸之木峠の地名など数多くの歴史資源が今なお多く残っております。さらに、みたけの森や里山、可児川に代表される豊かな自然、亜炭で栄えた歴史、傷ついた白鷺の湯浴みを見て発見され、切り傷、高血圧症などに効能があり和泉式部も湯治療養したと伝えられる鬼岩温泉、そして温泉周辺に広がる奇岩、怪石が累々と連なる国の名勝天然記念物鬼岩、昭和 27 年に現在の御嵩口駅から御嵩駅まで延伸された名鉄広見線などが活用できる資源あります。また、東海環状自動車道の開通、可児・御嵩ＩＣの開設により、御嵩町は名古屋大都市圏の一角として、交流人口の増加を期待することができます。

しかし、残念なことに御嶽宿地域はかつてのような賑わいや知名度、町民の心のなかでの重みが薄れ、特に御嶽宿の町並みとしての景観や雰囲気は失われつつあります。また、周辺地域の商店街としての活気も失われ、モータリゼーションや少子社会の進展により名鉄の利用者も大きく減少しています。

こうしたことから、歴史などの資源や地域特性を活かすことができず、御嶽宿地域をはじめ御嵩町全体の衰退が加速していくことが危ぶまれます。

そこで、地域の歴史や自然などの資源を改めて見直し、その資源を大切にしながらまちづくりに活かしていくことが必要です。

そのためには住民、事業者、行政が一緒になって御嶽宿地域はもとより、御嵩町全体が出会い、ふれあい、にぎわう町となるようなまちづくりに取組んでいくことが求められます。

第 1 章　御嶽宿地域の特性と課題

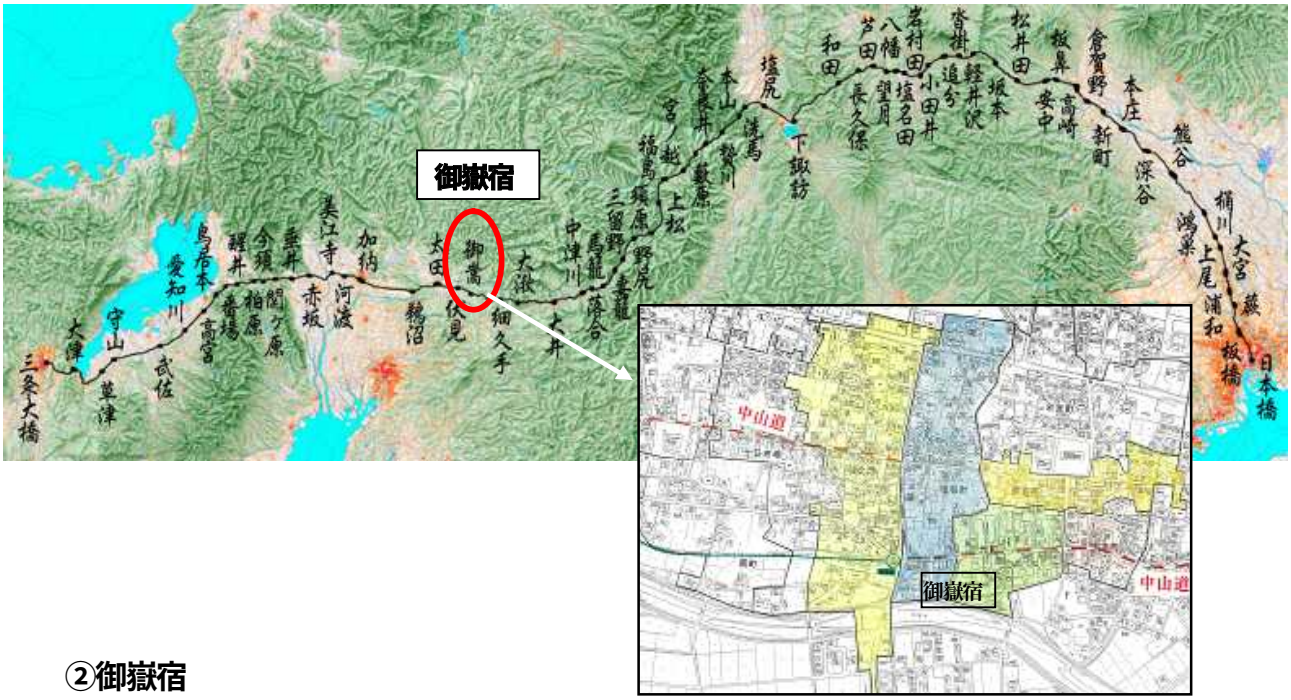
1 御嶽宿地域の歴史

①中山道

・中山道は、江戸時代主要五街道の一つとして整えられた街道であり、広域陸内交通網を形成しました。

・中山道は、当時（江戸時代）の表街道である東海道のバイパス的役割を担う街道として整備された歴史を持ち、最終的には 67 の宿場を有しました。

図表 1-1-1　中山道の全体ルートと御嶽宿の位置



②御嶽宿

・御嶽宿は、中山道の江戸から数え 49 番目の宿場町で、中山道が整備された慶長７年（1602）当初から、宿場としての機能を果たしてきました。

・現在、商家竹屋などの中山道の雰囲気をかもし出す町屋が現存しており、御嵩町においても貴重な町並みとして御嶽宿の雰囲気を残しています。

図表 1-1-2　御嶽宿の変遷　　出典：御嵩町教育委員会編纂：図録御嵩町の文化遺産

2 これまでの取組み

御嶽宿地域を中心として、住民や町は、次のような取組みをおこなってきました。

①歴史的な雰囲気の保存と継承

・本陣であった「野呂家」の尽力により建物の修復もおこない、看板を設置するなどして、御嶽宿をアピールしています。

・「中山道みたけ館」(図書館と郷土館の複合施設)ができ、中山道をはじめ御嵩町郷土を紹介する特別展などを通じ、郷土愛を育む取組みもおこなっています。

・「商家竹屋」の修復・再現をおこない、宿場町の面影を残し、当時を偲ばせています。

・御嶽宿地域を当時のように賑わそうと「よってりゃあみたけ　夢いろ街道宿場まつり」を毎年おこない、町内外から多くの人が訪れています。

②環境整備と活動

・名鉄御嵩駅前を整備し、ロータリーもつくり、人の寄付きが良くなっています。

・唐沢川の石積み護岸の整備をおこない、景観もよくなりました。

・地域の人により街灯が設置され、夜間でも歩きやすくなっています。

・地域の人により木製手作りベンチも置かれ、訪れた人を和ませています。

・願興寺に隣接する駐車場においては、住民グループにより物産などを販売する「御彩屋」が開かれています。また、町並みなどを案内する歴史ボランティア偲歴会も活動しています。

③中山道における取組み

・町内に残る中山道の全線の整備を実施し、謡坂の石畳などを修復し、当時の街道情緒が偲ばれるようにしました。

・町内にある史跡に分かりやすく説明した看板を設置し、訪れる人への案内もおこなっています。

・平成 18 年 11 月には、中山道ウォーキング「御嶽宿往来」を開催し、400 名以上の参加者を得て、地域資源をあらためて見つめ直しました。

３ 御嶽宿地域の課題と活用すべき特性

①課題

・かつては大勢の人で賑わっていましたが、今は人通りが閑散としています。

　街道の宿場町として、また亜炭鉱の採掘や「東濃」の中心地として、かつては賑わいを見せていましたが、少子高齢社会の進展、周辺都市の大型店進出などにより、人通りがまばらで寂しくなっています。

・商店街として店が並んでいましたが、空き家や空地も点在し、活気が無くなってきています。

　格子戸の街並みを形成している家屋が空き家となったり、家が取り壊されて空地になっている所が目につくようになっています。

・町民意識調査では、「さみしくなった」「魅力がない」という声が寄せられました。

　町民意識調査（平成 19 年 1 月実施）では、「御嶽宿地域に関心がある」が 44.1%、「賑わう活動や取組みの活動に参加してみたいと思う」が 41.2%となっていますが、「興味がない」「さみしい」「魅力がない」「発展が望めない」などで「関心がない」が 40.8%もありました。

・町民や高校生は、御嵩町の特徴として歴史や自然・風景をあげています。また、みたけの森をはじめ、中山道や願興寺、鬼岩公園など具体的な場所への思いを持っています。御嶽宿周辺への関心については、住民では半数（44.1%）となっているものの、高校生は 9.0%となっています。

町民が思う御嶽宿周辺　回答数 1,139

【紹介するとしたら】（図表 1-3-1）

歴史 32.5%、自然・風景 34.6%

【案内したい場所】

みたけの森、みたけ館、願興寺、鬼岩公園
愚渓寺、中山道

【御嶽宿への関心】（図表 1-3-2）

ある 44.1%　ない 40.8%

【課題・問題】

賑わいがない、人通りが少ない、興味がない、さみしい、魅力がない、家が次々と失われていく、過去のこと

【あったらいいもの】

飲食店、カフェテラス、お土産屋、特産品店
住民交流施設、休憩所、駐車場、のんびりできると

高校生が思う御嶽宿周辺　回答数 1,062

【紹介するとしたら】（図表 1-3-3）

自然・風景 25.7%、歴史 6.4%

【案内したい場所】

みたけの森、学校、中山道、みたけ館、願興寺

【御嶽宿への関心】（図表 1-3-4）

ある 9.0%　ない 86.3%

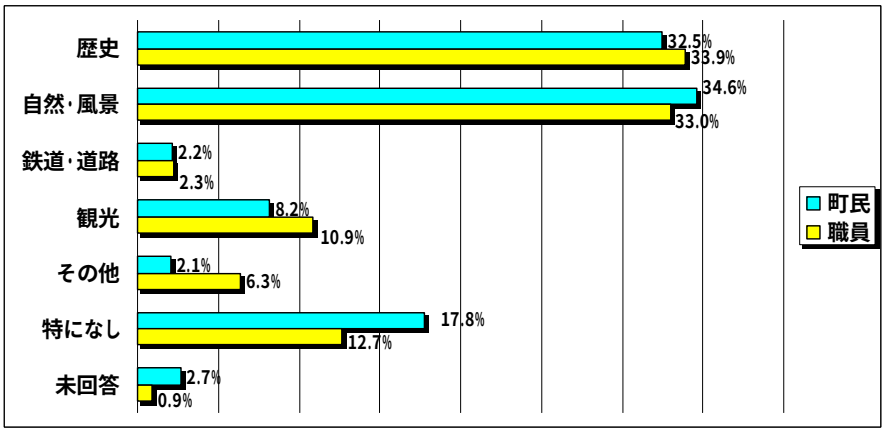
【課題・問題】

知らない、興味がない、魅力がない、何もない

【あったらいいもの】

スーパー、コンビニ、娯楽施設、駄菓子屋
お土産屋

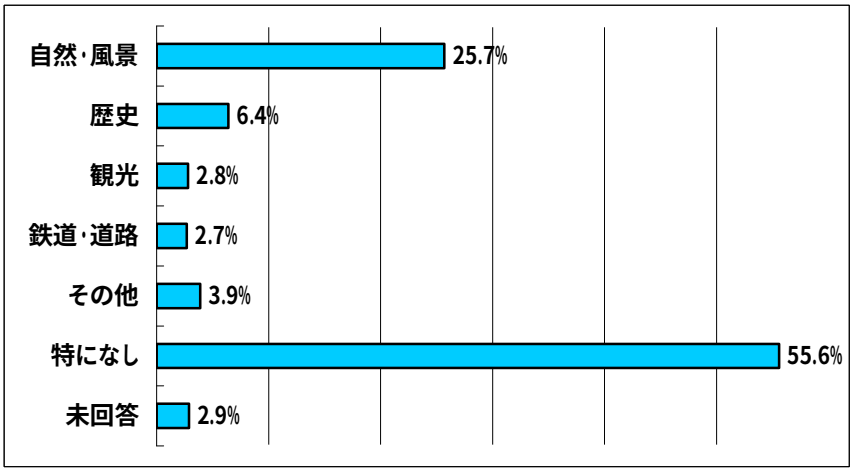
図表 1-3-1　御嶽宿を紹介するとしたら（町民意識調査結果）※町職員の調査結果も併記している。



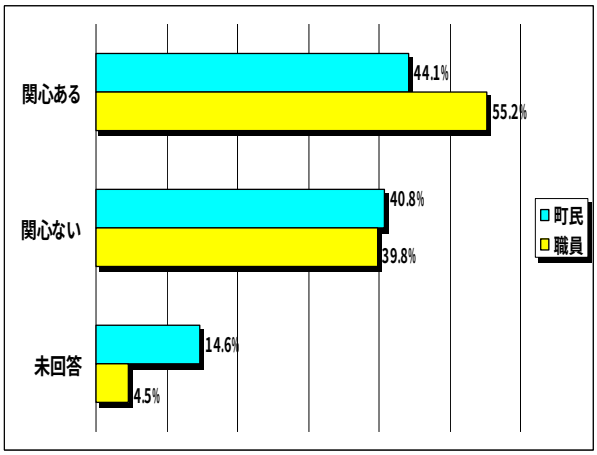
その他

何もない、亜炭、産廃、襲撃事件、
バイパス・インターチェンジ、
亜炭、グリーンテクノみたけ、
手作りバック、ラベンダー畑

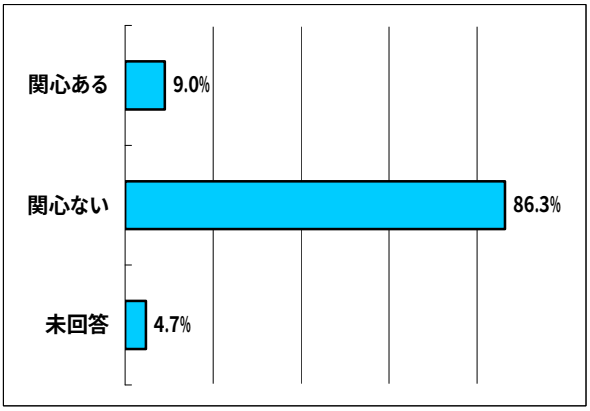
図表 1-3-2　御嶽宿を紹介するとしたら（高校生意識調査結果）



図表 1-3-3　御嶽宿についての関心（町民意識調査結果）



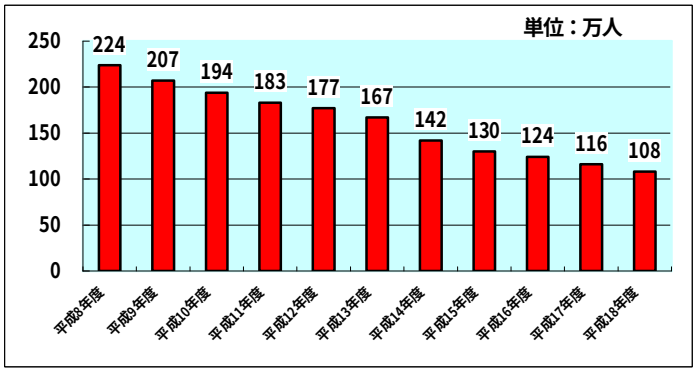
図表 1-3-4　御嶽宿についての関心
（高校生意識調査結果）



・名鉄電車の利用者数も激減しています。

モータリゼーションの進展や鉄道を通学の手段として使っている学生の減少などにより、名鉄広見線（新可児～御嵩駅）の利用者がこの10年間で半減以上減りました。

図 1-3-5　名鉄広見線の年間利用者数の推移

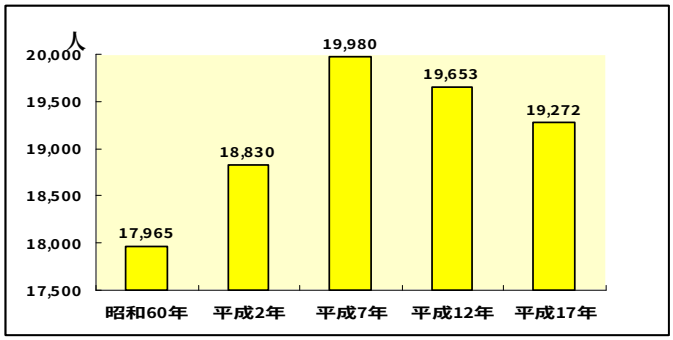


資料提供：名古屋鉄道

・御嵩町全体の人口減少傾向にあります。

国勢調査によると平成7年以降人口が減少傾向となっています。

図 1-3-6　御嵩町の人口推移



資料：国勢調査

②活用すべき特性

・願興寺や中山道に代表される多くの歴史資源があります。

宿場町、街道筋ならではの寺社、本陣・旧商家など町の歴史を物語る名所や旧跡、街道の面影を残す未舗装の道、地名が豊富にあります。

・みたけの森をはじめ里山など豊かな自然を身近に体験することができます。

ササユリが自生する生活環境保全林「みたけの森」などの里山や鬼岩温泉などの自然資源もあります。

・電車などを利用し、中山道を歩く人が増えています。

当時の街道の面影や自然が残っている伏見宿～御嶽宿～細久手宿（瑞浪市）などを歩いてめぐる人が目立ってきています。

・東海環状自動車道可児・御嵩ＩＣなどが設置され、遠方からの来訪者も期待できます。

東海環状自動車道の開通により、中濃や東濃の地域のみならず、豊田や名古屋方面との交通が至便となり、より遠方からの来訪者を期待することができます。さらに国道21号バイパスも整備される予定で、御嶽宿地域への寄り付きも良くなります。

・名鉄広見線の始発・終着の駅である「御嵩駅」があります。

御嵩駅を出るとすぐに御嶽宿や中山道があり、とても便利です。

・花フェスタ記念公園も近くにあり、一体となった集客も期待できます。

バラの植栽で知名度が高く年間 20 万人の集客力がある花フェスタ記念公園が近くにあり、一体的な集客効果が期待できます。

第 2 章　御嶽宿地域再生の方針と将来像

1 まちづくりの方針

御嶽宿地域における課題や問題を解決するために、次のような御嶽宿地域の活性化方針を定めます。

（1）歴史・観光・自然など地域の資源を活用しながら楽しめるまち

住民主体で地域資源の発掘・活用をしながら、地域の理解と魅力づくりを進めるとともに、町内の個人や団体、事業者と連携し、町内の経済循環を活発にします。

（2）住民が地域の資源に関心や誇りの持てるまち

御嶽宿地域をはじめ町内にはたくさんの地域資源があります。これらの地域資源は生活の中に溶け込み、普段は気にとめないものが多くあります。

そのため、豊かな地域資源の価値をもう一度見つめ直し、関心を持ちながら地域に誇りを持てるまちにしていきます。

（3）人を迎え入れる雰囲気がある温かいまち

町民一人ひとりが「おもてなしの心」を持ち、喜びや満足、感動を共有し、豊かな人間関係を築き、活力ある地域づくりを進めます。

（4）地域住民の暮らしを尊重し、人々が連携し、交流ができ、ふれあえるまち

地域住民の暮らしを尊重しながら、人と人のふれあいが持てるコミュニティづくりや住民が楽しめ、やりがいや生きがいが持てるような取組みを進めます。

また、暮らしの向上、環境の向上に努めながら、住む人、訪れる人が満足できる交流のまちづくりに取組みます。

2 御嶽宿地域再生の方向と将来像

①御嶽宿地域の活性化にあたっては、住民、事業者や行政が様々な活動を展開しながら、地域の活性化に取組んでいきます。
②御嶽宿地域が暮らしの場であることを尊重しつつ、訪れる人を迎え入れるおもてなしの場として取組んでいきます。
③「人」「もの」「情報」が交流し、様々な活動の支援や住民、団体、事業者、行政の相互の交流、連携を担う住民活動支援組織をつくり、地域の活性化への活動が楽しく継続的におこなわれるような仕組みづくりに取組んでいきます。

【御嶽宿地域再生テーマ】

見つめなおす街道文化
出あい・ふれあい・にぎわいのまち

【構想のイメージ】

みんなで歩いて　**た**のしくふれあう　**け**っこう粋なまち

3 御嶽宿地域再生の目標

目標期間

平成 20 年度から平成 27 年度までの概ね 8 年間とします。

～御嵩町第四次総合計画の期間と合わせ、状況により内容を見直していきます。～

①中山道や御嶽宿（御嵩町）に関心がある人の割合（住民意識調査）

平成 19 年度	⇒	平成 27 年度
約44%		約65%

②御嵩町への観光客入込み客数　（岐阜県観光レクリエーション動態調査：表 10）

平成 19 年度	⇒	平成 27 年度
約39万人		約45万人

ゴルフ場利用者数除く

出あい・ふれあい・にぎわいまちづくり構想（御嶽宿地域再生構想）の全体像

課題と活用すべき特性

◆願興寺をはじめ豊かな歴史的資源や自然資源があるが、町民の意識から薄れているとともに、「さみしくなった」「魅力がない」という声がある。

◆商店街の活気が失われ、中山道の町並みの風情も失われつつある。

◆御嶽駅は御嶽宿にあるという特色がある立地であるが、高校生の減少やモータリゼーションにより鉄道の利用者が減少している。

◆**活用すべき特性**

願興寺・中山道に代表される歴史的資源、みたけの森などの身近な自然、東海環状自動車道などにより広域的な行き来が便利になっていること、御嵩駅を出るとすぐに御嶽宿であること、花フェスタ記念公園が近くにあることなど

まちづくりの理念

１．歴史・観光・自然など地域の資源を活用しながら楽しめるまち

住民主体で地域資源の発掘・活用をしながら、地域を理解と魅力づくりを進めるとともに、町内の個人や団体、事業者と連携し、町内の経済循環を活発にします。

２．住民が地域の資源に関心や関わり、誇りの持てるまち

豊かな地域資源の価値をもう一度見つめ直し、関心を持たせながら、地域に誇りを持てるまちにしていきます。

３．人を迎え入れる雰囲気がある温かいまち

「おもてなしの心」を持ち、喜びや満足、感動を共有し、豊かな人間関係を築き、活力ある地域づくりを進めます。

４．地域住民の暮らしを尊重し、人々が交流でき、連携し、ふれあえるまち

地域住民の暮らしを尊重しながら、人と人のふれあいが持てるコミュニティづくりや住民が楽しめ、やりがい、生きがいが持てるような取組みを進めます。

暮らしの向上、環境の向上を図りながら、住む人、訪れる人が満足できる交流のまちづくりに取組みます。

めざすべき将来像

見つめなおす街道文化
出あい・ふれあい・にぎわいのまち

【イメージ】

みんなで歩いて

たのしくふれあう

けっこう粋なまち

【目　標】

期間

平成２０年度～２７年度

◆中山道や御嶽宿（御嵩町）に関心がある人の割合
約 44%（19 年度）⇒約 65%

◆御嵩町への観光客入込み客数
約 39 万人（19 年度）⇒約 45 万人

具体的な取組

取組み１　駅周辺の拠点づくり　◇駅前広場、交流拠点整備
◇空き屋等の活用／◇名鉄の利用促進

取組み２　魅力商品づくり　◇料理・特産品開発／◇地域ブランド戦略の検討／◇願興寺を活用した催し

取組み３　町並み景観・にぎわいづくり　◇町並み景観の保全
◇のれん、竹筒による演出／◇看板など統一したデザイン化

取組み４　案内サイン・マップづくり　◇案内板設置／◇御嶽宿の案内標識設置／◇ウォーキングマップ作成

取組み５　周辺環境の魅力づくり　◇唐沢川などを活用した親水の場づくり／◇里山・田園環境の整備

取組み６　誘客戦略づくり　◇ホームページ充実／◇フォトコンテスト／◇広域観光ルート・共同ＰＲ

取組み７　おもてなし人材・組織づくり　◇住民活動支援組織の育成／◇サポーター等育成／◇もてなしの普及

推進に向けて

◆第１ステップ
住民活動支援組織と住民
①現在活動している住民団体相互の連携づくりと支援
◇公益活動団体などの活性化
◇活動の活発化に向けた支援
・地域の資源を活用した取組みへの紹介支援
・「地域づくり活動助成事業」によるソフト、ハード両面からの支援
・ＮＰＯ法人設立支援
・活動助成事業の紹介、斡旋
・他の団体との交流支援など

②住民活動支援組織づくり
・住民活動の運営支援／・団体運営支援
・人材育成／・活動のＰＲ

③交流拠点施設設置準備会
・住民活動支援組織の活動拠点
・コミュニティサロン／・観光案内所
・町内商店サテライト
・特産品直売所、展示ギャラリー
・団体活動工房スペース

第２ステップ
◇住民活動支援組織
・交流拠点施設の運営
・団体の育成・支援
◇まちづくり活動団体協議会の設立
・住民団体、事業者、商工会、観光協会等の参画
・まちづくり活動の先導、活性化の推進

構想の地域展開イメージ

取組み１　駅周辺の拠点づくり

交流拠点づくり

●観光案内所の整備、案内板の設置
●直売所の整備
●職人工房、展示ギャラリーの整備
●住民活動支援組織

取組み１　駅周辺の拠点づくり

空き家、空き地の活用

●空き家や空き地を活用し、地域の憩いの場やたまり場となるように支援

取組み２　魅力商品づくり

●料理や特産品開発
　・みたけ蕎ずしなど
●地域ブランド戦略の推進
　・地域のイメージアップ推進
　・商品ブランドの確立
●願興寺を活かした交流イベント

取組み３
町並み景観･にぎわいづくり

●犬矢来、竹筒、暖簾などによる統一した町並み景観づくり
●建物や看板などの修景
●沿道へのベンチなどの設置
●まちかどギャラリーとしての演出

取組み４　案内サイン･マップづくり

●駅前への観光案内板の設置
●町並み散策、地域巡り
●観光・ウォーキングマップの作成

取組み５　周辺環境の魅力づくり

●やすらぎがもてる河川
　・唐沢川沿いの空き地を活用した広場
　・水遊びできるスポット
●里山・田園環境の整備
　・休耕田等を活用した景観づくり
　・住民ボランティアによる里山の管理
　・散策コースの整備

取組み６　誘客戦略づくり

●ホームページの開設とリアルタイム情報の提供
●みたけフォトコンテストの開催
●広域観光ルートづくり
●リレーイベントの開催

取組み７　おもてなし人材･組織づくり

●住民活動支線組織の育成
●御嶽宿地域再生サポーター・ガイドボランティアの養成
●御嶽宿地域案内ツアーの開催
●おもてなしハンドブックの作成

第 3 章　御嶽宿地域再生の具体的な取組みと内容

取組み１：駅周辺の拠点づくり　*⇒重点取組み１（参考資料参照）*

◇駅前広場、交流拠点整備　◇空き屋等の活用　◇名鉄の利用促進

【方針】

御嶽宿地域の中山道沿道やその周辺には空き家や空き地が点在し、街道としての賑わいや宿場町としての風情が薄れつつあります。また、来訪者を迎え入れるための飲食店、土産店など立ち寄りスポットも少なく、トイレや駐車場、休憩所などの環境もあまり整っていません。

そんな中、御嶽宿地域は、中山道の街道で、名鉄広見線御嵩駅があり、国道からも近いことから、地域の活性化の拠点と位置づけ、そのためには、人々がふれあい交流する場、つまり地域住民、団体相互の交流はもとより、高校生などの若年層から高齢者まで多世代の人がふれあうことのできる交流拠点が必要です。また、空き家や空き地などを有効に活用しながら、来訪者が中山道を楽しく歩けるよう、各所に立ち寄りポイント（買い物、飲食、体験、展示など）を作るとともに、散策に必要なトイレや駐車場などを確保することが求められます。

【施策】

◇御嵩駅の駅前広場の整備とともに、名鉄御嵩駅に近接して交流拠点施設を整備します。交流拠点やその周辺には、トイレ、観光案内所（観光ボランティア拠点）や案内板、直売所（飲食・土産）、職人工房（手芸品の製作・販売）、展示ギャラリー、コミュニティ活動拠点（集会スペース）、事務所などを設置します。

◇中山道沿いの空き家や空き地を活用し、住民などによる物産販売等の活動の場、地域の憩い場やたまり場となるよう支援します。

◇空き家を活用し、骨董品や手芸作品の展示、庭園の公開などをおこないます。

◇交流拠点のＰＲとともに、観光ＰＲ、各種のイベント・催しの開催や利用しやすい駅や広場の整備とともに、名鉄の利用促進の実施やＰＲをします。

～みたけ宿の会～

御嶽宿地域の空き家を活用して、地域のたまり場、コミュニティづくりの活動がはじまっています。

取組み２：魅力商品づくり　*⇒重点取組み２（参考資料参照）*

◇特産品開発　◇地域ブランド戦略の検討　◇願興寺を活用した催し

【方針】

御嵩町には現在、特産品と呼ばれるような商品があまりありません。人と人とが交流する上では「見る」だけではなく、「買う」「食べる」「体験する」ことを促すような魅力的な商品づくりをおこない、地域の付加価値や知名度を向上させることが求められます。

そのため、まず、御嵩の食文化として新たな料理や特産品の町民への定着を図るとともに、町内の農産物や林産物、地域資源や逸話などを活用して地域イメージに合う食事メニューや特産品開発を進めることが必要です。さらに、将来的には来訪者にも料理や特産品を提供したり町外で販売したりしながら、地域イメージも高めるような地域ブランド戦略を進めることを検討する必要があります。

また、地域の資源の有効利用と磨き上げをおこないながら、「訪れてみたい」「参加してみたい」と思えるような魅力的なイベントの定期的な開催が求められます。これらは地域に残る歴史・文化を広く伝えることができるとともに地域のＰＲにもつながります。

【施策】

◇「食」にかかわる料理や特産品開発に取組みを進めます。特に、御嶽宿地域の代表的な資源である願興寺の紋章である蟹牡丹から発想が生まれた「みたけ華ずし」の普及啓発とＰＲを強化し、町民が家庭で楽しむ食文化としての定着をはかり、将来的には販売促進を目指します。

◇地域ブランドを確立するため、中山道、願興寺、ササユリなどの地域資源を活かして、地域のイメージアップの推進と商品ブランドの確立を目指した地域ブランドの戦略づくりを進めます。

◇願興寺の歴史と格式を活かして御嶽宿地域のＰＲ等を図るため、願興寺の桜や紅葉を生かして季節を感じることができるイベントをおこなうなど、年間を通じた交流イベントを充実させていきます。

～みたけ華ずしの会～

願興寺の紋章「蟹牡丹」からヒントを得た「みたけ華ずし」を多くの町民に知ってもらい、まずは家庭で楽しむ食として定着を図る活動をしています。

取組み３：町並み景観・にぎわいづくり　⇒*重点取組み３（参考資料参照）*

◇町並み景観の保全　◇のれん、竹筒による演出　◇看板など統一したデザイン化

【方針】

歴史街道中山道や宿場町御嶽宿の面影や風情が薄れつつあります。そこで、今残っている格子戸の家や古風な家の風情を大切にし、歴史を感じることができ、来訪者を魅了する景観を形成していくことが求められます。

町並みの雰囲気を醸成するために、落ち着いた統一感がある景観づくりを進めることが必要です。

【施策】

- 沿道の建物に犬矢来を設置し、統一的な町並み景観を形成します。
- 沿道の建物にかつての屋号を記した暖簾、竹筒による花の飾りやロウソクによる明かりの演出、風鈴など季節に応じた統一的な飾りつけなどをおこないます。
- 町並みの一斉清掃を実施します。
- 沿道にベンチ（縁台）、なつかしい家財道具や農具などを配置し、まちかどギャラリーとして演出します。
- 街道宿場町にふさわしい看板などのデザイン化を進めます。
- 宿場町の町家風に体裁を整えるため、街道に面した建物の旧姿風改築への助成を検討します。

～竹筒による景観づくり～

御嶽宿地域の小さな景観づくりにと竹筒による花飾りやロウソクによる灯ろうかざりの活動を行っています。ちょっとした統一景観を出すだけで「いいね」という声も聴かれ、人々の関心もみられます。今後、継続していく組織づくりを検討し、実施していきます。

取組み４：案内サイン・マップづくり

◇案内板設置　◇御嶽宿の案内標識設置　◇ウォーキングマップ作成

【方針】

御嶽宿地域に立ち寄ってもらう人を誘客するとともに、御嶽宿地域に訪れた人に「ゆっくり」「のんびり」と散策してもらうことが必要です。そのため、わかりやすい標識や看板などの案内サインを充実していくことが求められます。

【施策】

◇駅前周辺や沿線道路に御嶽宿地域をはじめとする御嵩町の案内板を設置します。

◇町並み散策をはじめ、地域の歴史や文化、自然などの資源や飲食店などを巡ることができる観光・ウォーキングマップを作成します。

取組み５：周辺環境の魅力づくり

◇唐沢川などを活用した親水の場づくり　◇里山・田園環境の整備

【方針】

御嶽宿地域には、唐沢川をはじめ、可児川、御嵩富士（高尾峯）、御嵩城址公園、みたけの森など豊かな自然環境があります。生物の生息環境に配慮しながら多くの自然環境を活用して、住民や来訪者にうるおいとやすらぎを与えていくことが求められます。

【施策】

◇やすらぎがもてる河川への取り組み

・唐沢川沿いの空き地を活用した広場を整備します。

・水遊びのできるスポットを整備します。

◇里山・田園環境の整備

・遊休農地などに景観や環境保全に役立つ菜の花、レンゲ、コスモス、ケナフなどの植栽を進めます。

・里山を住民ボランティアにより管理し、四季折々に楽しめる自然環境や生物の生息環境のさらなる形成を図ります。
・里山や田園などを利用して「ゆっくり」「のんびり」と散策できる散策コースの整備を図ります。

取組み６：誘客戦略づくり

◇ホームページ充実　◇フォトコンテスト　◇広域観光ルート・共同ＰＲ

【方針】

地域のイメージを向上させ、交流人口の拡大を図っていくには、効果的な情報発信をおこなうとともに、訪れてみたいと思えるような魅力的でわかりやすい情報、客層に応じたニーズの高いリアルタイム情報などを、地域の個性を活かして提供していくことが求められます。

また、地域の魅力を高めていくには、町内にある資源に着目するだけでなく、周辺の地域資源と連携を図ることが大切です。

そのため、周辺地域と連携を図り、中山道沿いや東海環状自動車道沿いの広域的なネットワークを組んで相互のＰＲ、共同イベント、広域コース設定などの実施を図ることが求められます。

【施策】

◇ホームページなどでおすすめスポットや旬な情報を毎日のように書き込み発信していくなど情報媒体の充実を図ります。
・御嶽宿地域のホームページの開設
・リアルタイム情報、投稿口コミ情報やシニア・家族向けに対応した情報の収集と発信
・食べ物ガイドマップの作成

◇みたけフォトコンテスト（写生）の実施

◇広域観光ルートの設定と共同ＰＲの実施を図ります。
・中山道沿いの宿場町との連携、花フェスタ記念公園との連携はもとより、東海環状自動車道沿線地域と広域的な連携を図ります。

◇リレーイベントを開催します。
・御嶽宿地域を舞台として「よってりゃあみたけ夢いろ街道宿場まつり」などの今までのイベントや、新たなイベントを定期的に開催して、年間を通じての集客を図ります。

取組み７：おもてなし人材・組織づくり

◇住民活動支援組織の育成　◇サポーター等育成　◇もてなしの普及

【方針】

町民一人ひとりがおもてなしの心を持ち、来訪者とのふれあい・交流を通じて地域の魅力を伝えていくことが大切です。

そのため、地域への愛着を育むとともに、人と人との交流への理解を深め、来訪者へのおもてなしの心の醸成を図るなど、人や組織の育成に向けたプログラムに取り組むことが必要です。

【施策】

◇住民活動支援組織の育成

・御嶽宿地域の活性化に向けた住民の活動などを促進するため、これらの活動をサポートしたり、コーディネートしたりする中間支援組織の育成を図ります。

◇御嶽宿地域再生サポーター・ガイドボランティアの養成

・現在、御嵩町の歴史に関して案内するボランティアが活動をおこなっていますが、御嶽宿地域の活性化に向けて取組みをサポートしたり、観光ガイドをおこなったりする人材をさらに養成するため、必要な知識・技能を修得する講座などを実施します。

◇御嶽宿地域案内ツアーの開催

・地域の資源の魅力を知るきっかけづくりとして御嶽宿地域案内ツアーをおこないます。

◇おもてなしハンドブックの作成

・住民向けにおもてなしの基礎知識や心構えなどを伝えるための「おもてなしハンドブック」を作成します。

第4章　御嶽宿地域再生の推進に向けて

この構想を一緒になって策定してきた「御嶽宿地域再生まちづくり住民会議」のメンバーは、それぞれの団体をつくり、御嶽宿地域の活性化、そして御嵩町の活性化にと活動をはじめています。この構想の実現に向けて具体的に進めるために、次のように第１ステップ、第２ステップの段階を踏みながら、御嶽宿地域再生まちづくり住民会議のメンバーをはじめ多くの住民・団体のみなさんと進めていきます。

第１ステップ

1　住民活動支援組織と住民活動交流拠点施設

御嶽宿地域の活性化の取組みを推進していくには、住民の理解と協力がなくては進みません。そのため、この構想の内容を住民のみなさんにお知らせし、住民や事業者と一緒になって、ちょっとした活動から活動の輪を広げ、団体の支援や地域の活性化に関わる人の育成することが必要です。そして個々の団体が相互に評価し合い、連携しながら活動を進めていくことを目指します。

そこで、まずはじめに、住民団体の連携や支援をおこなう住民活動支援組織を立ち上げて、御嶽宿地域の活性化を一緒なって担う団体の支援や人材育成を進め、活性化のための人づくり、組織づくりをします。そして、まちづくりの拠点となる住民活動交流拠点施設を設置します。

①現在活動している住民団体相互の連携づくりと支援

現在活動している公益活動団体や「みたけ華ずしの会」や「竹筒景観づくり」、「みたけ宿の会」などの活動をさらに活発にしていくための必要な支援をおこないます。

・地域の資源を活用した取組みへの紹介支援
・「地域づくり活動助成事業」によるソフト、ハード両面からの支援
・ＮＰＯ法人設立支援
・活動助成事業の紹介、斡旋
・他の団体との交流支援など

②住民活動支援組織づくり

町内には 40 を超える住民活動団体があります。また、団塊の世代等の退職者が増えることや社会貢献意識の高まりに応じて、まだ実際には活動までに至っていないが何かボランティア活動をしたい、地域の役に立ちたいと思っている住民も増えていると考えられます。その人たちへのアプローチや既存団体の活動をさらに活発するために、次の事業をおこなう住民活動支援組織をつくります。

・住民活動の運営支援

住民・団体活動の運営を支援

・団体運営支援

各種助成制度の情報収集と提供、住民団体活動への支援、イベントなど協力者募集

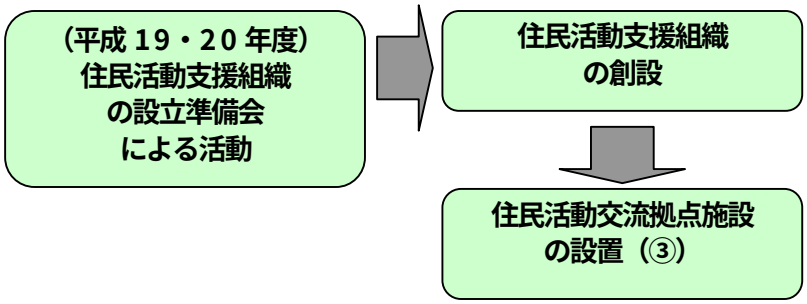
・人材育成

公益活動への人材育成講習

・活動のＰＲ

様々なボランティア活動や住民団体活動の情報収集と広報

図 4-1-1　住民活動支援組織と住民交流拠点施設の展開



③住民活動交流拠点施設の設置

住民活動支援組織を中心に、商工会、観光協会、住民団体など種々の団体・組織が話し合いながら、まちづくりの拠点となる機能を持つ施設を設置します。その機能の例示としては次のようなものが考えられます。

・住民活動支援組織の活動拠点

住民活動支援組織の活動拠点と住民活動交流拠点施設の運営管理

・コミュニティサロン

住民同士や団体間の打合せ、交流スペース

・観光案内所

町内の自然・観光・史跡・歴史を案内する拠点、案内ボランティアの拠点

・町内商店サテライト

お店の商品などの紹介、商品販売

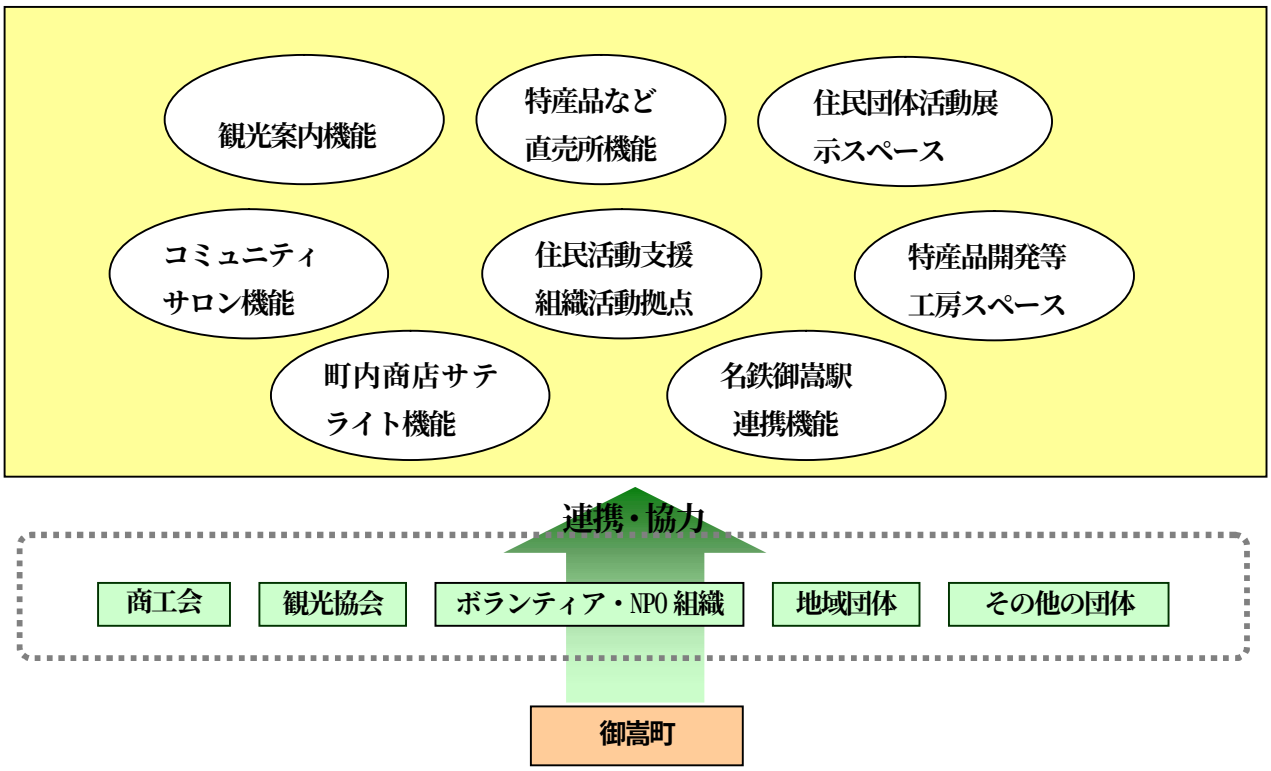
・特産品直売所、展示ギャラリー

住民や団体が作った農作物、特産品、手芸品などを作品の展示、販売

・団体活動工房スペース

特産品開発、試作など気軽に利用できる工房

図 4-1-2　住民活動交流拠点施設機能のイメージ



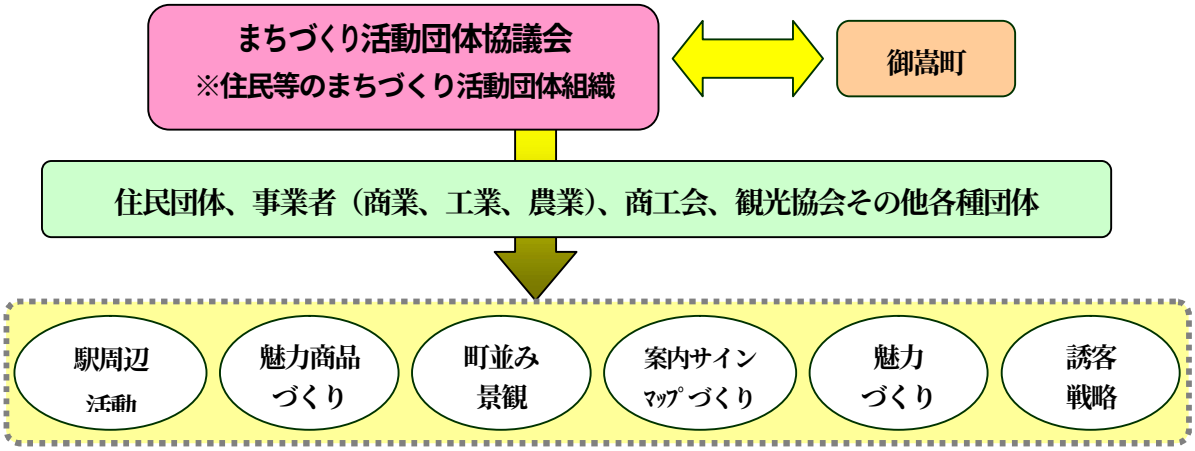
第２ステップ

2 まちづくり活動の充実

住民活動支援組織は、住民が活用できる環境をつくり交流拠点施設の運営を軌道に乗せながら、既存団体ができる取組みの支援や公益的な活動をおこなう団体を育成・支援していきます。

そして、住民団体、事業者（商業、工業、農業など）、商工会、観光協会その他各種団体などが積極的に参画した「(仮)まちづくり活動団体協議会」を設立し、まちづくり活動を先導して、御嶽宿地域をはじめ御嵩町全体の活性化への取り組みを進めていくことを目指します。

図 4-2-1　まちづくり活動団体協議会のイメージ



参 考 資 料

参考資料1　重点的な取組みと行動スケジュール

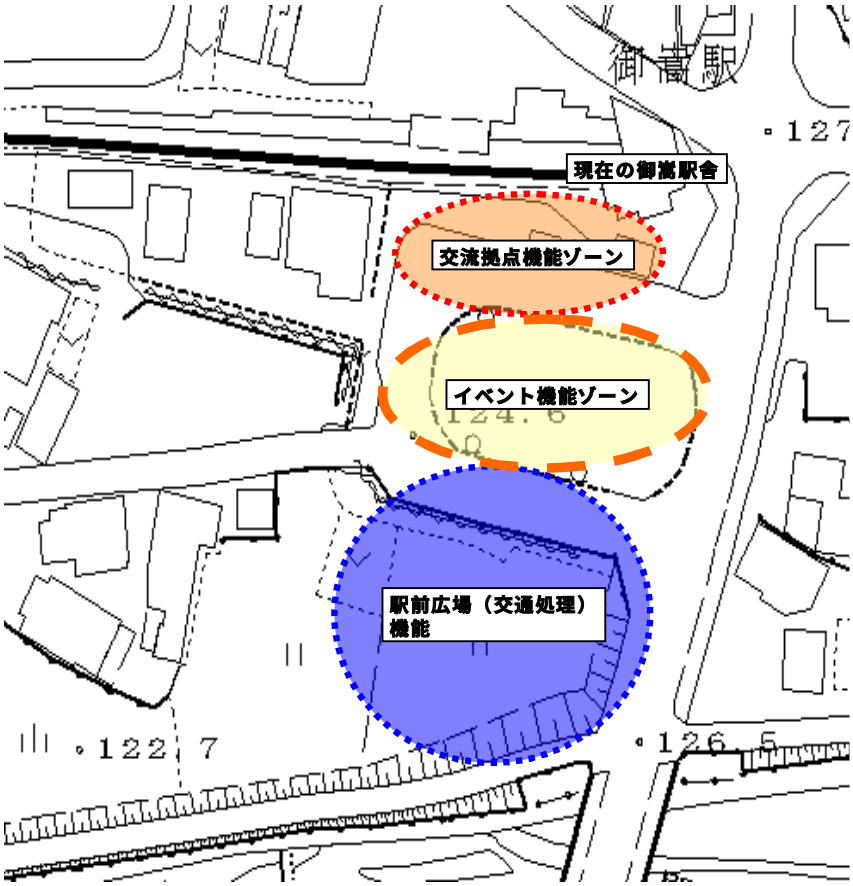
１.重点的取組みの考え方

第３章に示した次の取組み１から３それぞれの内容については、既に一部で町民が取組みを開始した活動がみられます。

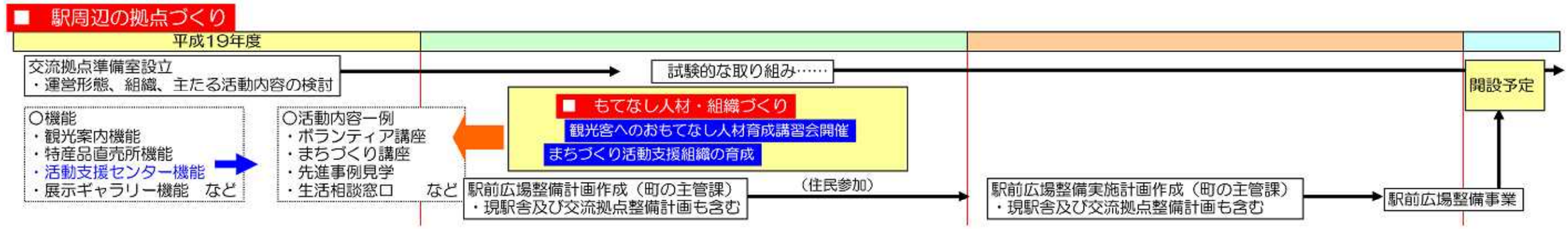
取組み１　駅周辺の拠点づくり：下記の機能配置イメージ参照
取組み２　魅力商品づくり
取組み３　町並み景観・にぎわいづくり

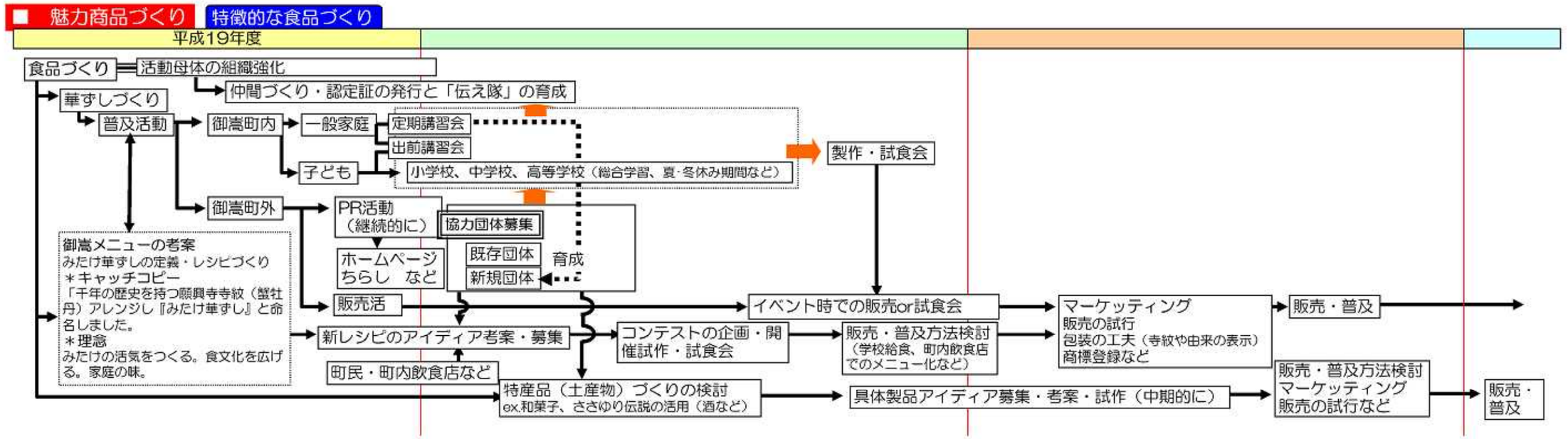
これらを御嶽宿地域再生のための「はじめの一歩」として活かし、活動に参加する仲間を増やすことや、活動内容を発展させていくための行動スケジュール（案）を検討しました。

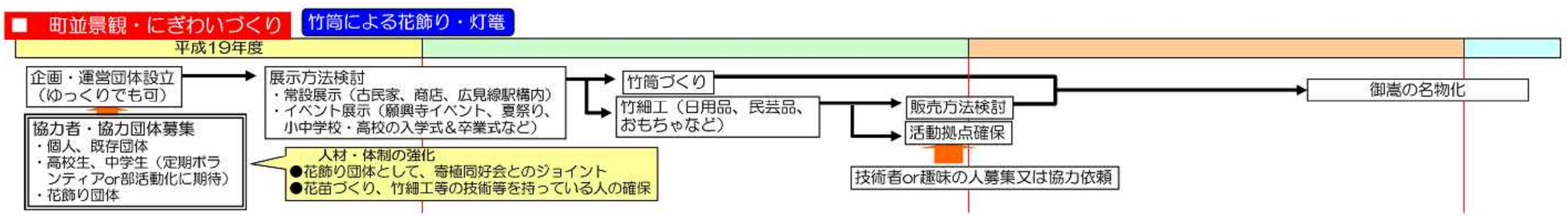
図　駅周辺の交流拠点等の機能配置イメージ



2 行動スケジュール(案)


■ 駅周辺の拠点づくり
平成19年度
交流拠点準備室設立
・運営形態、組織、主たる活動内容の検討
試験的な取り組み……
開設予定
○機能
・観光案内機能
・特産品直売所機能
・活動支援センター機能
・展示ギャラリー機能　など
○活動内容一例
・ボランティア講座
・まちづくり講座
・先進事例見学
・生活相談窓口　など
■ もてなし人材・組織づくり
観光客へのおもてなし人材育成講習会開催
まちづくり活動支援組織の育成
駅前広場整備計画作成（町の主管課）
・現駅舎及び交流拠点整備計画も含む
（住民参加）
駅前広場整備実施計画作成（町の主管課）
・現駅舎及び交流拠点整備計画も含む
駅前広場整備事業


■ 魅力商品づくり
特徴的な食品づくり
平成19年度
食品づくり
活動母体の組織強化
仲間づくり・認定証の発行と「伝え隊」の育成
華ずしづくり
普及活動
御嵩町内
一般家庭
定期講習会
出前講習会
子ども
小学校、中学校、高等学校（総合学習、夏･冬休み期間など）
製作・試食会
御嵩町外
PR活動
（継続的に）
協力団体募集
ホームページ
ちらし　など
既存団体
新規団体
育成
御嵩メニューの考案
みたけ華ずしの定義・レシピづくり
＊キャッチコピー
「千年の歴史を持つ願興寺寺紋（蟹牡丹）アレンジし『みたけ華ずし』と命名しました。
＊理念
みたけの活気をつくる。食文化を広げる。家庭の味。
販売活
イベント時での販売or試食会
マーケッティング
販売の試行
包装の工夫（寺紋や由来の表示）
商標登録など
販売・普及
新レシピのアイディア考案・募集
コンテストの企画・開催試作・試食会
販売・普及方法検討
（学校給食、町内飲食店でのメニュー化など）
町民・町内飲食店など
特産品（土産物）づくりの検討
ex.和菓子、ささゆり伝説の活用（酒など）
具体製品アイディア募集・考案・試作（中期的に）
販売・普及方法検討
マーケッティング
販売の試行など
販売・普及


■ 町並景観・にぎわいづくり
竹筒による花飾り・灯篭
平成19年度
企画・運営団体設立
（ゆっくりでも可）
協力者・協力団体募集
・個人、既存団体
・高校生、中学生（定期ボランティアor部活動化に期待）
・花飾り団体
人材・体制の強化
●花飾り団体として、寄植同好会とのジョイント
●花苗づくり、竹細工等の技術等を持っている人の確保
展示方法検討
・常設展示（古民家、商店、広見線駅構内）
・イベント展示（願興寺イベント、夏祭り、小中学校・高校の入学式＆卒業式など）
竹筒づくり
竹細工（日用品、民芸品、おもちゃなど）
販売方法検討
活動拠点確保
技術者or趣味の人募集又は協力依頼
御嵩の名物化

参考資料２　意識調査結果

１．「御嵩宿の再生に向けての町民意識調査」集計結果

今回の意識調査は、御嵩町内の「各種町内任意団体」「名鉄御嵩駅乗降者」「中山道みたけ館利用者」「地域自治会」の方、そして「役場職員」に対しておこなったものです。

1,000 人を超えるみなさんにご協力をいただきまして御嶽宿について、強いては御嵩町についての意識を調査させていただき、地域の再生・活性化の手がかりをつかむことを目的とします。

調査実施日　平成 19 年１月中旬から２月下旬　配布・回収

調査方法

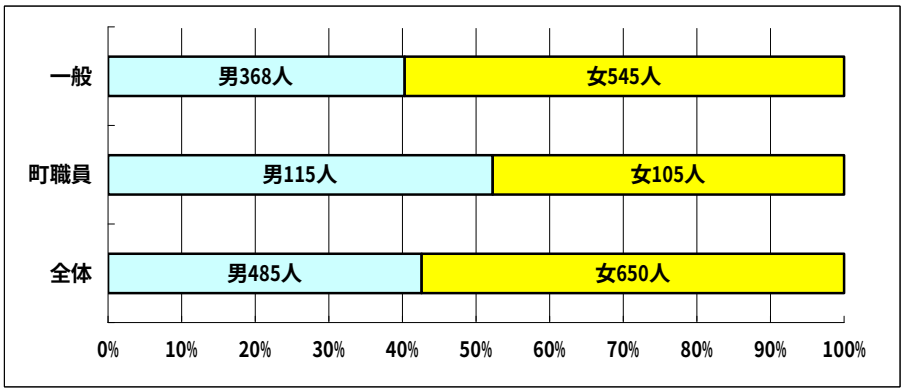
各種町内任意団体	郵送及び個別で依頼し、役場･出張所へ持参いただき又は回収した。
中山道みたけ館利用者	1月 16 日から 31 日まで、利用者に館内で依頼し、回収箱へ投函受けた。
名鉄御嵩駅乗降者	1月 31 日、電車の降客に対し配布し、回収箱を以後3日間駅舎に設置し、回収した。
地域自治会	自治会長に直接依頼し、直接回収し又は役場･出張所へ持参いただいた。
町職員	各部署ごとに依頼し、各部署単位でまとめて回収した。

調査対象者

各種町内任意団体　219 人
中山道みたけ館利用者　84 人
名鉄御嵩駅乗降者　14 人
地域自治会　（中本町・愛宕町・元町・若宮町１・昭和町・木の下・西之門・十日市場・南町・南山）
601 人
町職員　221 人
計　1,139 人

＜性別＞

調査対象者の性別は、全体として男性 42.6%、女性 57.4%であった。



＜年齢構成＞

年齢構成では 50 歳代が 24.0%と最も多かった。次いで多いのは 60 歳代の 19.6%であった。
20 歳代や 30 歳代からも多くの回答を得た。

10 歳代	1.4%
20 歳代	6.0%
30 歳代	9.1%
40 歳代	15.8%

50 歳代	24.0%
60 歳代	19.6%
70 歳代	16.7%
80･90 歳代	5.1%
未回答	2.4%

＜調査対象者の居住地＞

全体としては、上之郷地区 6.0%、御嵩地区 42.3%、中地区 29.9%、伏見地区 9.3%、町外 6.9%であった。各種団体、中山道みたけ館などでは町全体一様に回答を得た。

(単位：人)

	団体	みたけ館	御嵩駅	地域自治会	職員	計
上之郷	40	11			17	68
御嵩	37	13	10	392	30	482
中	53	25	2	209	51	340
伏見	67	10			29	106
御嵩町	11	12	1		20	44
町外	2	11	1		65	79
未回答	9	2			9	20
計	219	84	14	601	221	1,139

注意：表中「御嵩町」は、回答に御嵩町で町内名の記載がなかったものを示す。

＜参考事項＞　名鉄御嵩駅乗降者の利用目的

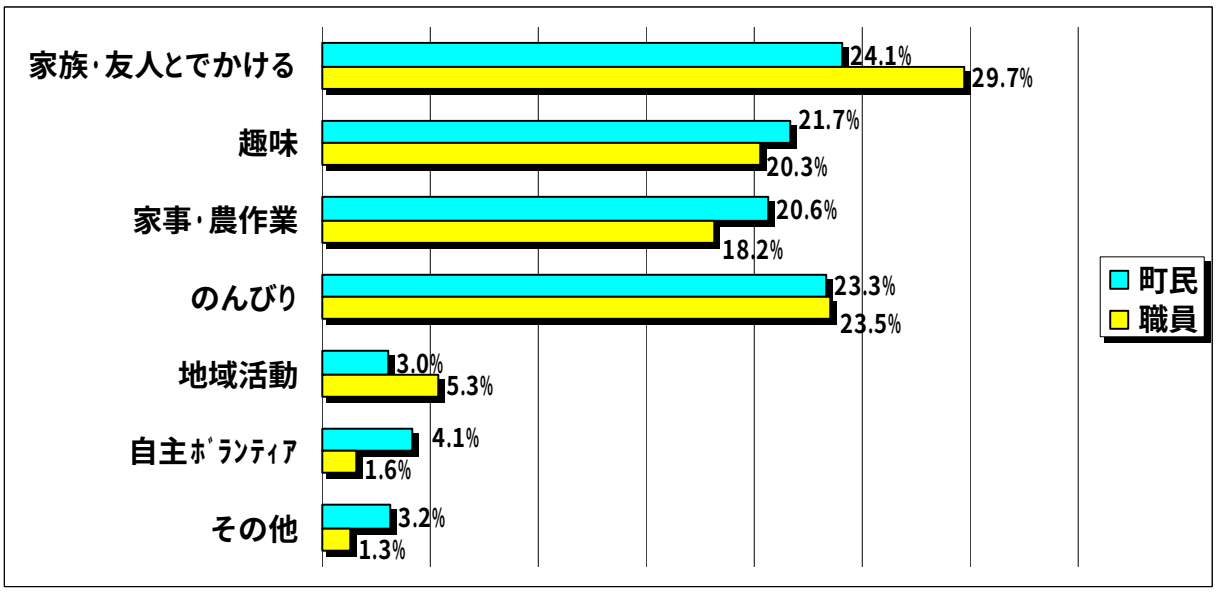
通勤　　８人
通学　　３人
買い物　３人

＜休日の主な過ごし方＞

休日の主な過ごし方としては、家族・友人と出かけるが町民 24.1%、職員 29.7%と最も多かった。地域活動として、職員が 5.3%と一般より高い数値を示したが、反面自主ボランティアは一般が 4.1%であったが、職員は 1.6%と低い数値を示し、職員の自主ボランティアが少ない傾向にある。

家事・農作業は町民が 20.6%、職員が 18.2%と多く、休日には田畑での作業を行っていることが伺われ、この作業の成果を活性化の資源の１つに結びつけると効果的であると考えられる。

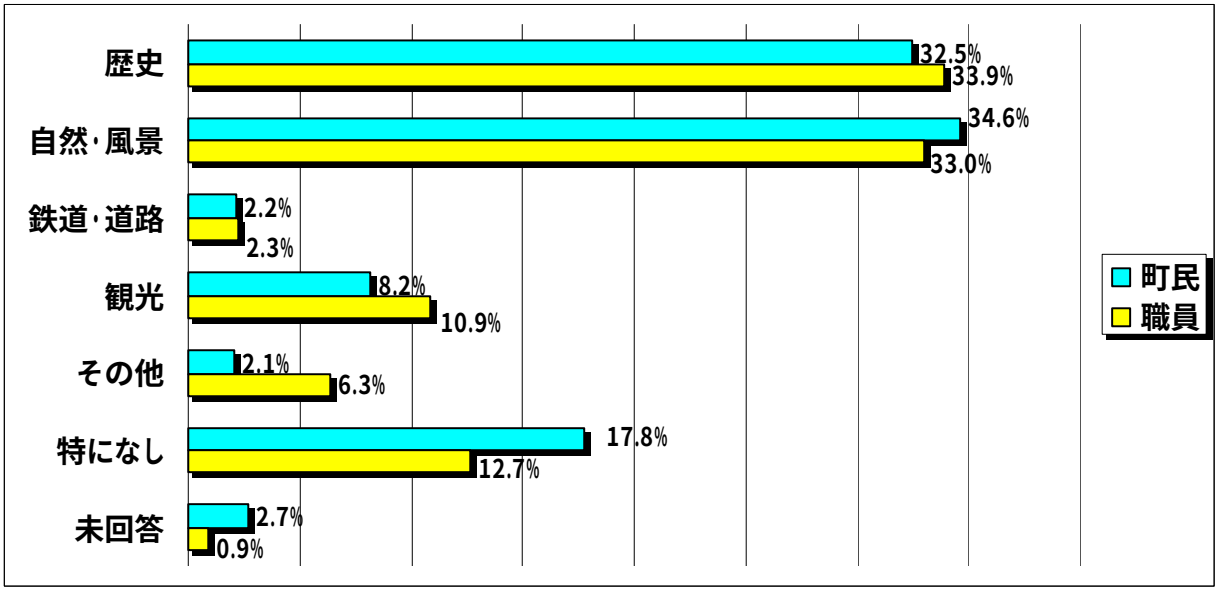
（第一次産業の利用）



＜御嵩町を紹介するとしたら何について話しますか＞

「歴史」や「自然・風景」がいずれも 30%以上を示した。これは、あとの設問にある「案内したい場所」の回答がみたけの森や中山道みたけ館、願興寺などが大部分占めていることと結びついている。歴史や自然・風景は御嵩町の大きな特徴であり、町民の多くがアピールしたい点であることがわかる。

また、「特になし」が一般では 17.8%、町職員では 12.7%であるのに対し、高校生は同設問で 55.6%（別葉参照）となっており、町民（職員）の方がかなり低い数値となっている。御嵩町への関心を深めるための１つとして高校生へのアプローチも必要であると考えられる。

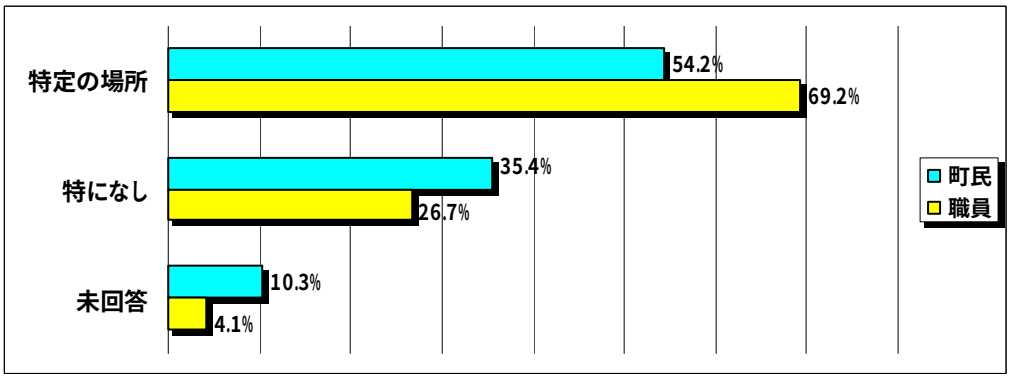


その他　何もない、亜炭、産廃、襲撃事件、バイパス・インターチェンジ、亜炭、グリーンテクノみたけ、手作りバック、ラベンダー畑

＜案内したい場所＞

案内したい場所としては、「特になし」が町民 35.4%（職員が 26.7%）であり、約 3 人に１人が紹介するところがないと考えている。案内したい場所を具体的にイメージできた町民は 54.2%に留まった。職員は 69.2%であった。案内した場所としては、みたけの森や中山道みたけ館、願興寺などがその多くを占めた。

今後、強く・継続的にアピールしていく取組みが効果的であり、必要である。



案内したい特定の場所

件数

	町民	職員
みたけの森	156	44
みたけ館	118	43
願興寺	82	21
鬼岩公園	53	11
愚渓寺	52	12
蟹薬師	35	3
その他史跡	27	
中山道	14	7
石畳	9	3
御嵩城址	8	6
上之郷	8	4
マリア像	7	5
御嵩駅周辺	7	1
自然	5	
亜炭廃坑	3	1
鬼の首塚	3	
海洋センター	2	2
真名田親水公園	2	

理由

みたけの森：自然の景観・手入れも行き届いている・ササユリの開花・相手の年齢学識によって対応が変わる・大人から子どもまで楽しめる場所

みたけ館　：御嵩町の歴史がわかる。文化･歴史について説明してもらえる。御嵩を知ってもらうのに一番良い所。展示品が興味深い

願興寺　　：歴史のある寺。御嵩町のシンボル　薬師祭礼がおこなわれる

蟹薬師　　：木彫りの仏像・古くてかっこいい

愚渓寺　　：歴史のある寺

中山道　　：変化に富んでいる。素晴らしい道中である。

御嵩城址　：御嵩町が一望できるから・歩くのに最適。

上之郷　　：四季が折りなす自然豊かな景観

マリア像　：日本でも数少ないキリシタン狩りから、長い間逃れることができた人々の象徴だから

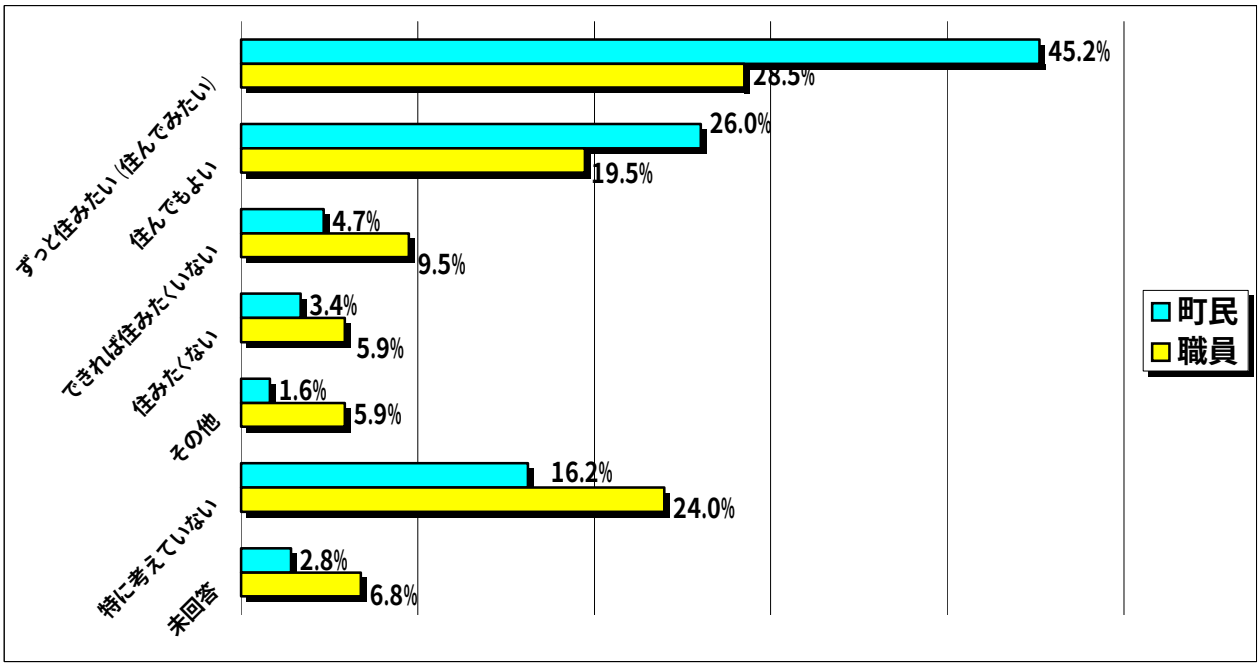
御嵩駅周辺：当時の面影が残っており、のんびりしていると思われる

真名田親水公園：数多くの野鳥などがいて、1.3㎞の遊歩道があり、すばらしい景観があり、子供達も安心して遊べる・他の地区の人からも好感を持っている人が多い・四季折々の自然が楽しめる

＜今後も（又は将来）御嵩町に住みたいと　思いますか＞

それぞれの生活の拠点がある上で、御嵩町という地域を「生活の場」としてどう見るかを聞いたものである。ずっと住みたい(住んでみたい)、住んでもよいを合わせると、町民で 71.2%、職員で 48%となっている。高校生の回答(14%)からも分かるように、現在の居住地と比例する。

具体的なその理由としては、「今住んでいるから」のほかに、「安全・安心」、「住みやすい」、「自然が豊か」が多くを占めた。逆に「不便」、「水道代など行政サービスが悪い」などがあった。また、「安全・安心」であるという回答もある中、逆に亜炭廃坑などにより「安心でない」との回答もあった。



その他：昔から住居があるから・高齢になれば大都市・今後の行政サービスしだい・定年退職したら住みたい・親と同居だから住まなければいけない

住みたい・住んでもよい理由　　件数

	町民	職員
生まれ育ったところ、長くすんでいるから、家がある、土地があるから	221	46
好きだから、安全･安心だから、住みやすい、のどか	122	14
自然が豊か	119	21
便利だから	35	6
友達や人がいいから	27	4
歴史や史跡がいい	9	

住みたくない理由　　件数

	町民	職員
不便だから	34	20
水道代が高い･サービスが悪い･施設が充実していない	10	14
安心でない･亜炭廃坑	9	2
人が親切でない	6	2
活気がない	5	
文化振興が遅れている	2	
他に住みたい	7	2
環境がよくない	1	
その他	6	

＜中山道について知っていること＞

御嵩町の中山道については知識の深浅はあるものの、多くの町民が知っている。きっかけさえあれば、関心を持ってもらえることが考えられ、この資源は当然活用する必要がある。

件数

	町民	職員
五街道の1つ･江戸と京都を結ぶ	124	61
御嶽宿･宿場町	74	34
皇女和宮	46	12
松並木	20	
謡坂石畳	11	5
一呑清水	11	3
マリア像	9	1
史跡が多い	8	5
牛の鼻欠坂	8	2
耳神社	8	
蟹薬師･願興寺	7	
みたけ館	6	4
和泉式部	6	
鬼の首塚	5	
東山道	5	
東海自然歩道	2	2
らくだ	2	2
御殿場	2	1
愚渓寺	2	
夏祭り	1	
安藤広重		4

＜御嶽宿（御嵩駅周辺）について知っていること＞

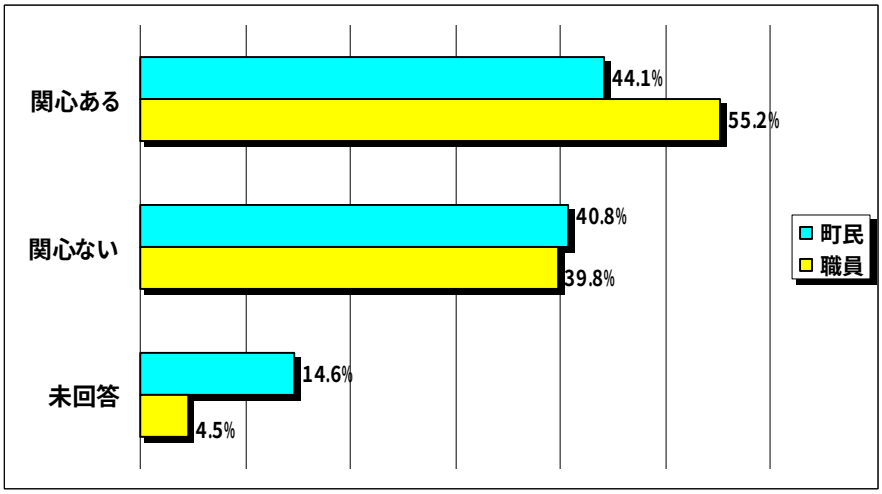
中山道と同じくらい御嶽宿についても町民の多くは知っている。特定の地域であり、その状況を認識している町民も多く、それだけに回答の中で、「さみしい」「前は栄えていた」という意見も見られ、現状を憂える気持ちが伺える。この気持ちを危機感と捉えるなら、多くの町民が挙げている願興寺（蟹薬師）や中山道みたけ館（竹屋）などを活用し、ちょっとした賑わいを出すことにより賛同へと好転する可能性も考えられる。

件数

	町民	職員
中山道４９番目の宿場･本陣･伝馬朱印状	116	60
願興寺･蟹薬師･祭礼･（青木小学校）	102	41
みたけ館･竹屋	46	27
さみしい･案内看板がない･店がない	26	
前は栄えていた･曙座･日ノ出映画館	25	13
石の標識･史跡がある	9	1
愚渓寺	6	2
御嵩駅がある	4	1
東濃の中心	4	
唐沢川･自然がある	3	1
皇女和宮が来た	2	1
御彩屋	2	
亜炭で栄えた		4

＜中山道や御嶽宿（御嵩駅周辺）に関心がありますか＞

「関心ある」と「関心ない」との差について、職員は 15 ﾎﾟｲﾝﾄ以上あるが、町民では３ﾎﾟｲﾝﾄと僅差である。これは、「古い町並みなど歴史・史跡があり、知ってほしい・にぎわってほしい」という意見と、「知らない・興味がない、発展が望めない・さみしい・魅力がない」という逆の意見が見られる中、「昔のようににぎわってほしい」と思うケースと「今はさみしくもうだめだ」と思うケースで、関心の有無が出ていると考えられる。また、「知らないから学びたい」という建設的な意見もあり、きっかけや取組み次第で町民の考えが大きく変わっていく可能性が伺える。



関心がある理由

件数

	町民	職員
古い町並み･歴史がある･宿場町･中山道があるから	111	44
他の人に知ってほしい･にぎわってほしい	60	22
生活の場･生まれたところ	36	18
知らないから学びたい	33	8
町の玄関･中心･駅がある	25	7
国宝がある･願興寺	16	2
町の誇り･いい所	15	1
自然がたくさん･空気がいい	11	1
みたけ館･竹屋があるから	8	2
その他	12	5

関心がない理由

件数

	町民	職員
知らない･考えたことがない･興味がない	109	40
発展が望めない･さみしい･魅力がない･何もない	28	11
過去のこと	6	2
忙しい	6	1
他に力を入れるべき	6	
このままでいい	4	1
悪化したから･悪くなったから	3	
田舎	1	
その他	4	1

＜御嶽宿（御嵩駅周辺）にあったらいい施設やお店＞

この設問の回答では、高校生で多い意見の「スーパー・ショッピング・コンビニ・カラオケ」などと異なり、「食べ物」「喫茶店」や「特産品」「お土産」など「おもてなし」の視点で施設などをイメージしている傾向が見られる。また、来訪者ばかりでなく町民自身がこの地域では、交流拠点施設、案内所、休憩所、のんびりできるところ、情報発信施設など、人との交流・情報交換の場やホットできる場なども求めていることがわかる。

少数であるものの「今のまま」「施設はいらない」という意見も 25 件あり、ただ施設を作ればいいのではなく、当然ではあるがその活用方法や他の取組みと一体で進めていく必要がある。

(件数)

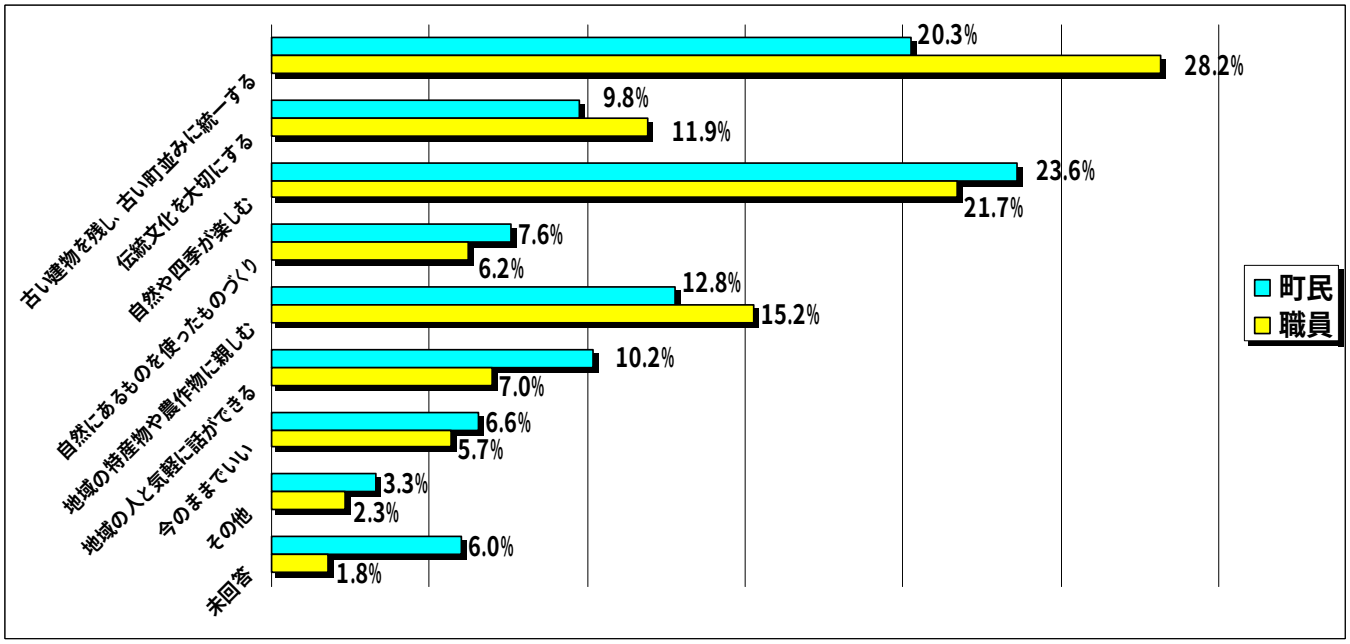
	町民	職員
喫茶店（カフェテラス）・食堂・駄菓子屋・甘味店	154	66
土産屋・特産品店・道の駅	114	27
交流拠点施設・休憩所	42	3
今のまま・施設はいらない	24	1
スーパー・デパート・アウトレット	22	8
書店	19	4
駐車場	18	5
古い町並み	17	10
コンビニ	17	6
のんびりできるところ・公園	13	6
体験施設	10	2
案内所・情報発信施設	9	5
スポーツ・レクリエーション施設	9	1
商店	8	4
温泉施設・足湯	8	3
映画館・演芸場	6	
蟹薬師祭礼山車格納庫	5	
文化祭施設・ライブハウス	5	
歩行者専用道路	4	1
簡易宿	1	2
トイレ	1	1
子どもが遊べる施設・学習施設		3
その他	34	7

＜にぎわいのある御嶽宿（御嵩駅周辺）にするためにはどのような町にしていくといいと思いますか＞

職員の「古い町並みに統一する」が多いのと比べ、町民は「自然や四季を楽しむ」ことにイメージを持っている。「御嵩町の何について話すか」の回答で多かった「歴史、自然・風景」と一致する。
また、「地域の特産物や農産物に親しむ」「自然にあるものを使ったものづくり」も第一次産業の利用という点で効果があると考えている傾向も伺える。

「地域の人と気軽に話ができる」という回答に町民の特徴が見られ、生活の中でのコミュニティーの場として重視していることが伺える。

高校生の 19.5%ほどでないないがこの設問でも「今のままでよい」も少数意見としてあり、急激な町並み整備は望んでいないことも注視する必要がある。



＜御嶽宿（御嵩駅周辺）にどんな活動や取組みがあればにぎわうと思いますか＞

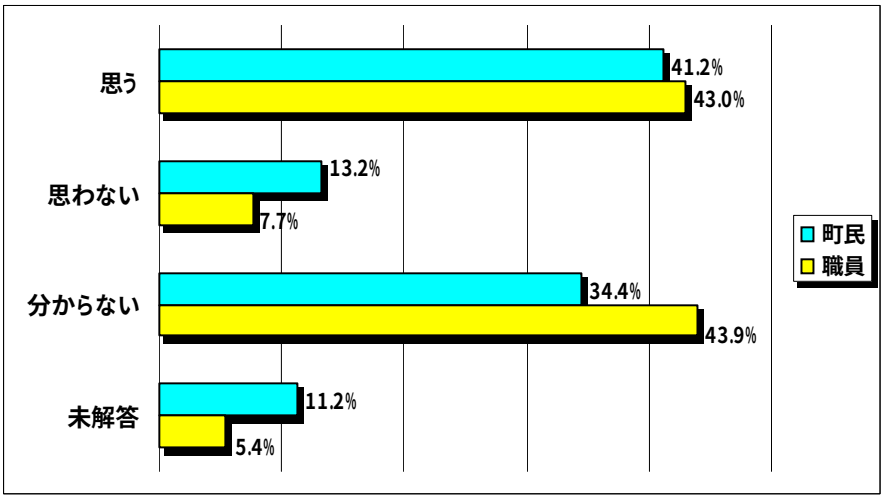
よってりゃあみたけ夏祭りや蟹薬師祭礼などのイベント・祭りが高校生同様に上位にあり、町民の中に浸透していることがわかる。また、「無理・分からない」という意見も多く、何をしても無理と考える一方で、何をしたらいいのか分からない、考えられないと思う町民も多くいることも推測でき、今後具体的に示していきながら、取組みを進めていく必要がある。

件数

	町民	職員
祭り･イベント	71	33
無理･分からない	60	19
一過性でなく今ある（願興寺･中山道など）ものを利用する	49	20
朝市･農産物･特産物販売	47	11
お店や商店街の充実	45	22
駅を利用･駅の拡充･交通の利便向上	37	5
ウォーキング･散歩コース設定	34	8
町民などの交流	13	13
今のままでいい	13	1
自然を利用する	10	6
ボランティア育成	7	9
その他	33	9
未回答	507	80

＜御嶽宿（御嵩駅周辺）で今後、人がにぎわう活動や取組みが行われれば参加してみたいと思いますか＞

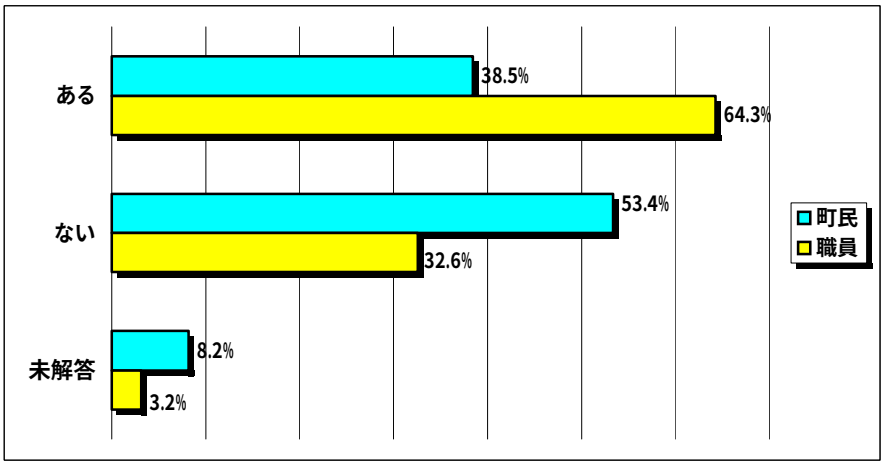
「思う」と回答した方が 40%を超えている。また、「分からない」と回答した中にも具体的な内容次第では十分に参加を得ることが可能な方も含まれていることが考えられ、それを加味すると 70%～80%に上り、期待できるものと考えられる。



＜自主的にボランティア活動に参加したことがありますか＞

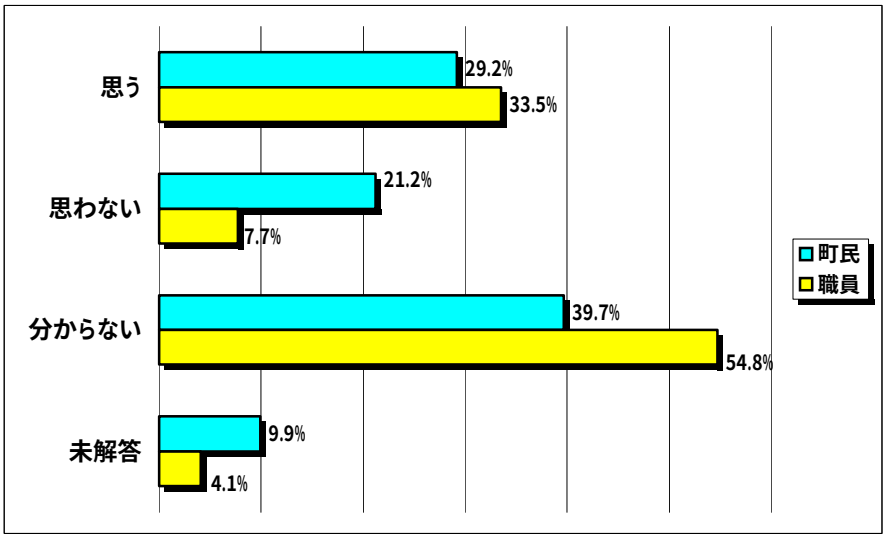
職員は、職員自主活動の１つとしてボランティア活動の推進を実施していることから高い数値となっている。町民でも 38.5%が「ある」と回答している。3 人に１人を超える人が行っていることになり、意識は非常に高いと考えられる。

「ない」が町民は 53.4%、職員は 32.6%となっており、町内にはボランティアなどいろいろな住民活動団体があり、その活動の情報を町民に対し発信することも必要である。



＜今後、自主的にボランティア活動に参加してみたいと思いますか＞

「思う」と回答したのは町民が 29.2%、職員が 33.5%であった。前設問の「ボランティア活動に参加したことがある」と回答した方の数値より町民で 9.3 ﾎﾟｲﾝﾄ、職員で 30.8 ﾎﾟｲﾝﾄ減少している。また、「分からない」と回答した方は、町民で 39.7%、職員で 54.8%ある。これは、ボランティア活動をしているものの、その成果や意義を十分実感できていないことがわかる。達成感や自己向上の実感は人によって異なるが、宣伝し、人に伝え、人から評価などを受けることもその１つと考えられることから、いかに活動を周知させるかも住民活動を進めて行くうえで重要である。

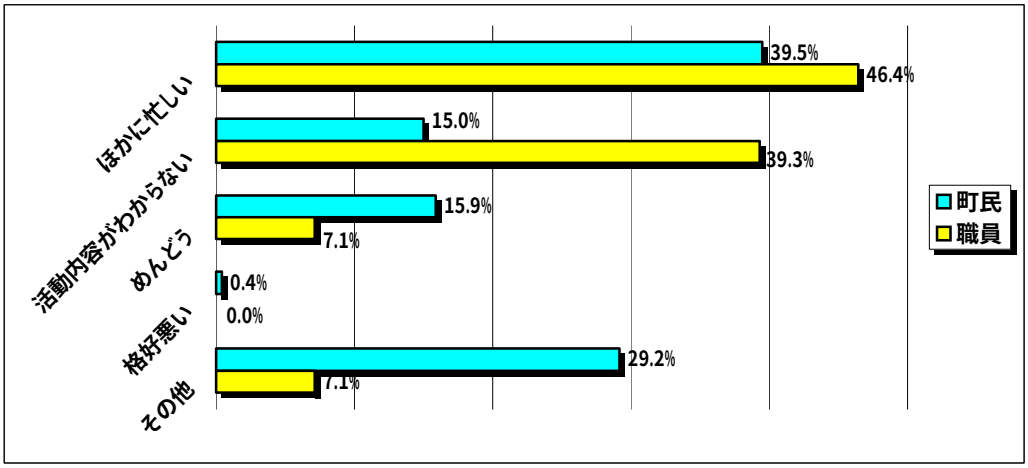


参加してみたい活動

老人支援、子どもとのふれあい、若年者との共同作業、清掃・環境活動、安全活動、求められれば何でも、里山・自然保護、観光・施設案内、文化財保護活動、スポーツを通じた活動

＜前設問で「思わない」と答えた理由はなんですか＞

「活動内容がわからない」と回答した町民は 15.0%に対し、職員は 39.3%であった。町民の「その他」の内容なかで、「自分にあったものがない」「自分の考えに合わない」などの意見も見られ、ここでも活動内容を広く周知することにより、それぞれやってみたいメニューに参加し、増加することが考えられる。また、それをヒントとして、新たな活動につなげていくことも期待できる。



その他：体調不良、高齢、自分にあったものがないから、やりたい者がやればいい、育児など
自分の考えに合わない

＜まとめとして＞

多くの方が案内したい場所にみたけの森や中山道みたけ館など上げ、御嵩町は「歴史」「自然・風景」が特徴であるという認識を持っている。

御嶽宿（御嵩駅周辺）にあったらいい施設・お店として「食べ物屋」「休憩所」「特産品店」などこの地域を来訪者や町民の「おもてなし」の場としてイメージしていることが分かった。また、そのための観光案内所などの情報発信、駐車場やトイレなどの整備についての意見も見られた。

設問の中で住みたくない理由として少数であるが「人が親切でない」（６件）という回答がある。この構想づくり、地域再生のねらいの１つに「地域コミュニティーの再構築」があるが、いろいろな活動や取組みを今後行っていくなかで、「社会性・連帯感・支えあい」も重要な視点であることを掲げていく必要もある。

町内にはボランティア活動をはじめいろいろな活動を行っている住民活動団体がある。どんな団体がどんな活動をおこなっているかを広報し、町民活動の相互の連携を支援していくことが重要である。そのことによりそれぞれの活動の達成感や評価も生まれ、活動に広がりが出てくると思われる。

御嶽宿（御嵩駅周辺）は、中山道、御嶽宿などの歴史的資源や唐沢川や近くにはみたけの森、御嵩富士があり自然・風景の資源もある。また、名鉄広見線御嵩駅やふれあいバスの起点ともなっている。この地域を「おもてなしの場」「情報発信の場」「１つの活動拠点の場」と位置付けることにより町民の交流やふれあいも生まれ、地域のコミュニティー環境も向上することが期待できると考えられる。

２.「御嵩宿の再生に向けての高校生意識調査」集計結果

御嵩町内の「東濃高等学校」「東濃実業高等学校」の生徒に対して、御嶽宿の再生に向けての高校生意識調査を実施した。

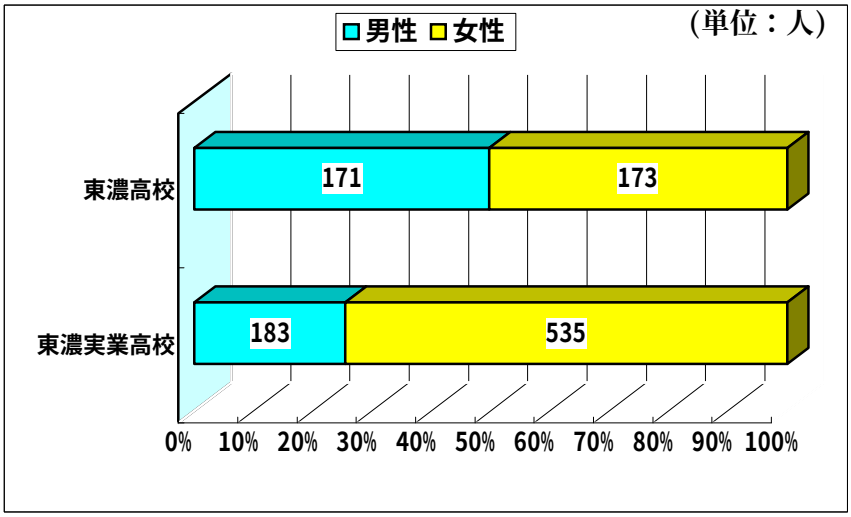
1,000 人を超える生徒のみなさんに協力をいただき御嶽宿について、また御嵩町についての意識を調査し、地域の再生・活性化の手がかりをつかむことを目的とした。

調査実施日　平成 18 年 12 月 13 日に各学校に調査票を配布し、2 週間ほど後に回収した。
調査方法　各学校のクラス単位で配布し、その場で記入し、回収する方法とした。
調査対象者の属性

東濃高校	344 人	（１年生 86 人・２年生 123 人・３年生 135 人）
東濃実業高校	718 人	（１年生 232 人・２年生 246 人・３年生 240 人）
計	1,062 人	（１年生 318 人・２年生 369 人・３年生 375 人）

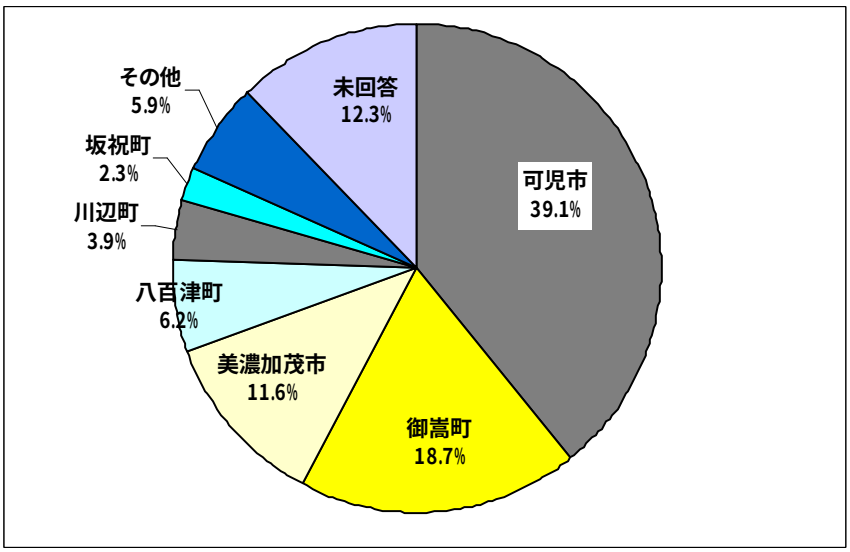
＜性別＞

両校とも女子の生徒が多くなっている。特に東濃実業高校は約 75%が女子生徒である。



＜居住地＞

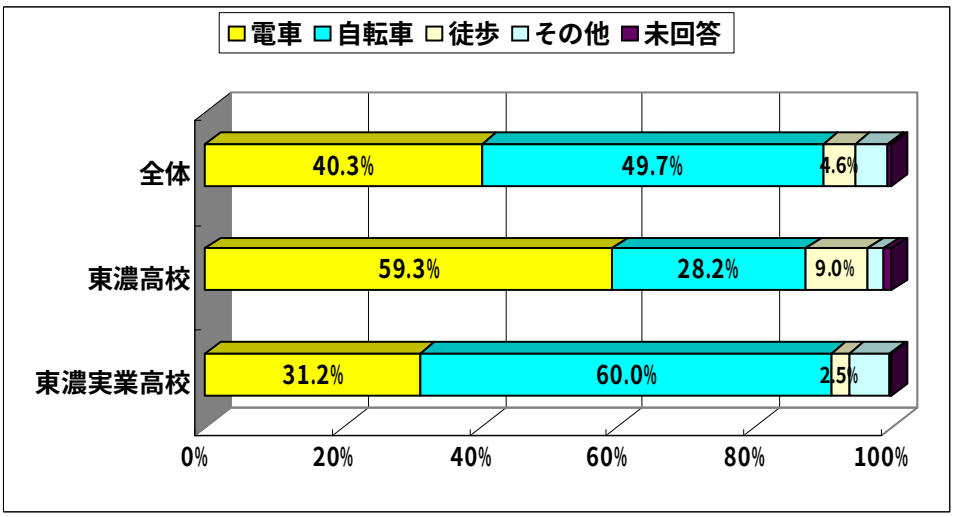
２校とも御嵩町内の高校ではあるが、通学する生徒の居住地は、隣接する可児市が約 40%を占めており、御嵩町内の生徒は 20%弱となっている。



＜通学交通手段＞

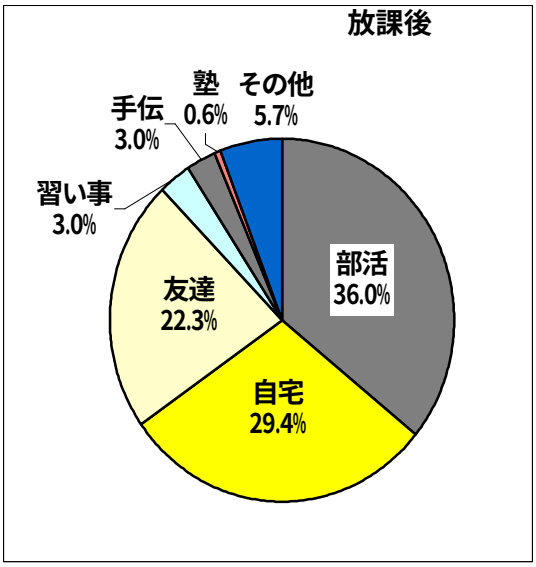
通学の交通手段は、全体では約 50%が自転車で、中でも東濃実業高校の生徒の 60%が自転車での通学である。これは、御嵩町内はもとより、隣接する可児市も自転車での通学圏内であることが伺われる。

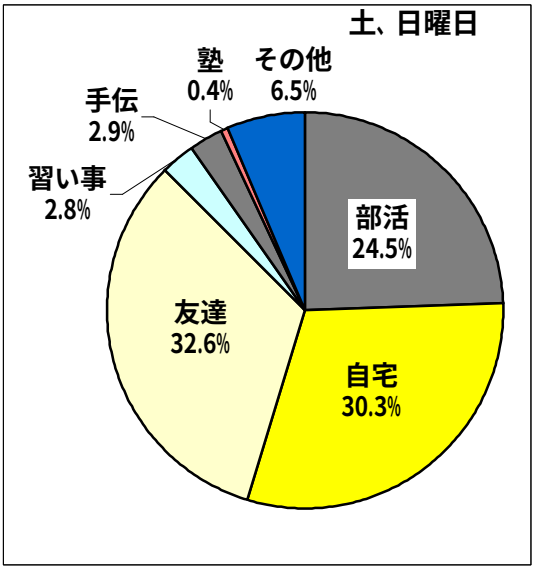
一方、全体の 40%、東濃高校では 60%の生徒が電車での通学をしている。少子化の中で電車での通学生が減少するものの、通学の重要な手段の１つであることは間違いがなく、更に天候などの面で必要に応じて電車を利用していることは容易に考えられる。



＜放課後、土曜日や日曜日の過ごし方＞

学校の授業や行事以外での過ごし方については、平日の放課後と土日曜日の過ごし方に大きな差はなく、自宅や友達との時間を過ごす生徒が、平日で約 52%、土・日曜日で約 63%を占め、地域活動への参加の可能性については、その内容や頻度、アプローチの仕方で十分可能であると考えられる。

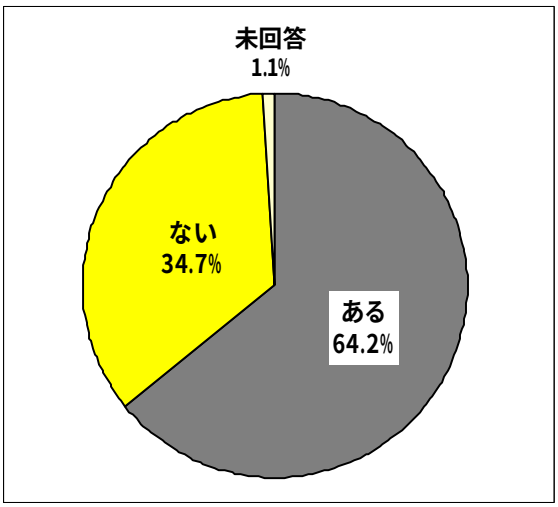




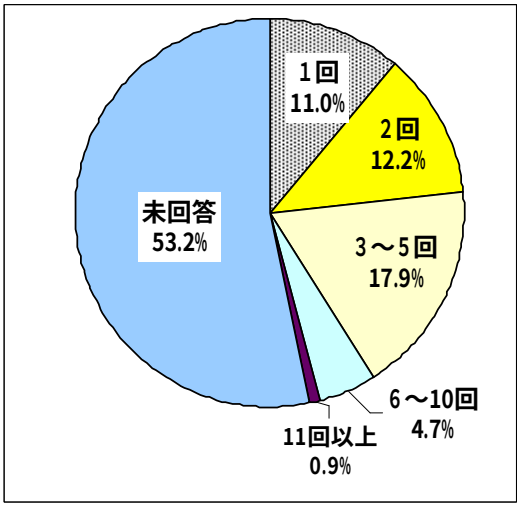
＜ボランティア活動に参加したことがありますか＞

ボランティアへの参加への意識については、学校活動をはじめ、地域などいろいろな場面や団体で行われており、そのことを反映して参加への経験は 60%を超える生徒で「ある」と回答している。
回数については複数回参加している状況が見られ、ボランティア活動への違和感はないように見受けられる。

参加有無



参加回数

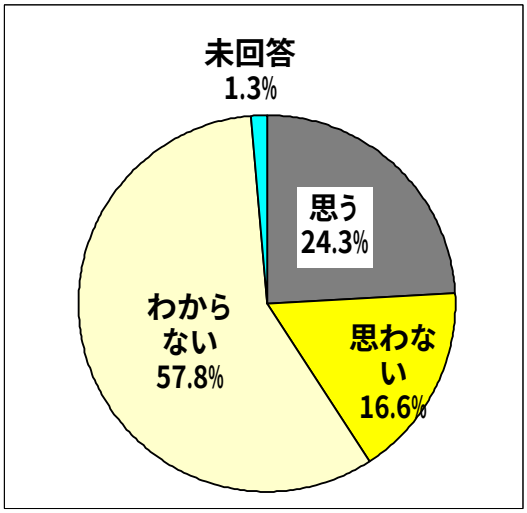


＜今後、ボランティア活動に参加したいと思いますか＞

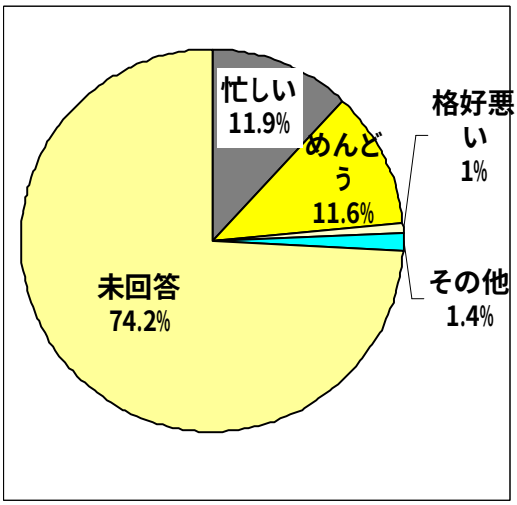
今後のボランティア活動についての参加の意志を見てみると、参加経験があるにも関わらず、今後については「わからない」との回答が 60%弱あり、「思わない」を含めると約 75%を占め、ボランティア活動へ参加しているもののその活動意義や活動成果を実感できていない状況が伺える。これは、「参加したいと思わない理由」の設問に対して「忙しい」や「めんどう」、「格好悪い」より、「未回答」が約 75%あることからも推測できる。

このことからも、ボランティア活動に対する意識は見られ、その内容や手法次第で十分地域活動に参画してもらえる状況であることが考えられる。

今後の参加有無



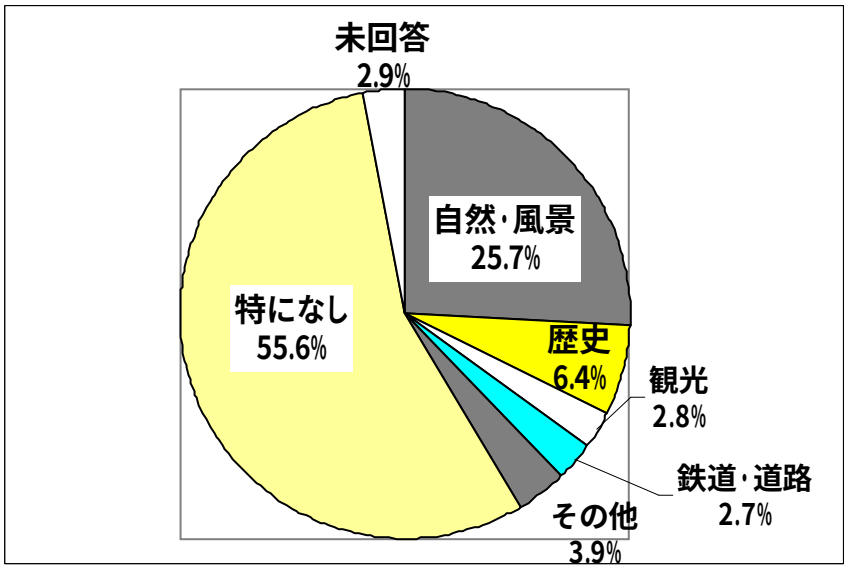
思わないの理由



＜御嵩町を友達に紹介するとき、何について話しますか＞

「御嵩町を友達に紹介するときに、何について紹介するか」という設問について、25%を超える回答を占めたのが「御嵩町の自然・風景」であった。生活の場、通学の場、そして学習の場にたくさん自然があり、これを好印象として受け止めていると考えられる。

反面、「特になし」が約 56%あり、今後、種々の取組みを行っていく際、その情報の出し方やアプローチの仕方を工夫する必要があることがわかる。

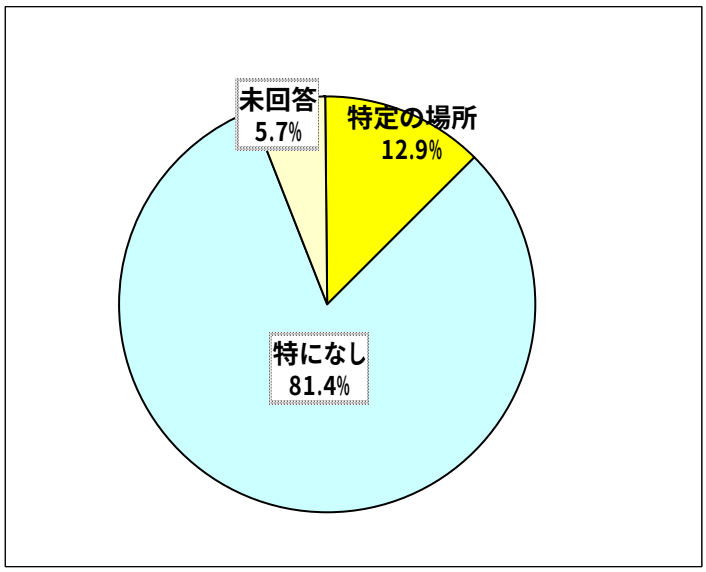


＜御嵩町で友達をぜひ案内したい場所はどこですか＞

「御嵩町で、友達をぜひ案内したい場所は」という設問であるが、前設問からさらに御嵩町で印象に残っている場所を具体的に聞くものとなっている。

「特になし」が 81.4%あり、前設問の「特になし」よりさらに 25%増えていることから、多くの生徒が御嵩町のイメージはそれなりにあるものの、具体的な場所までは意識として持っていないことがわかる。

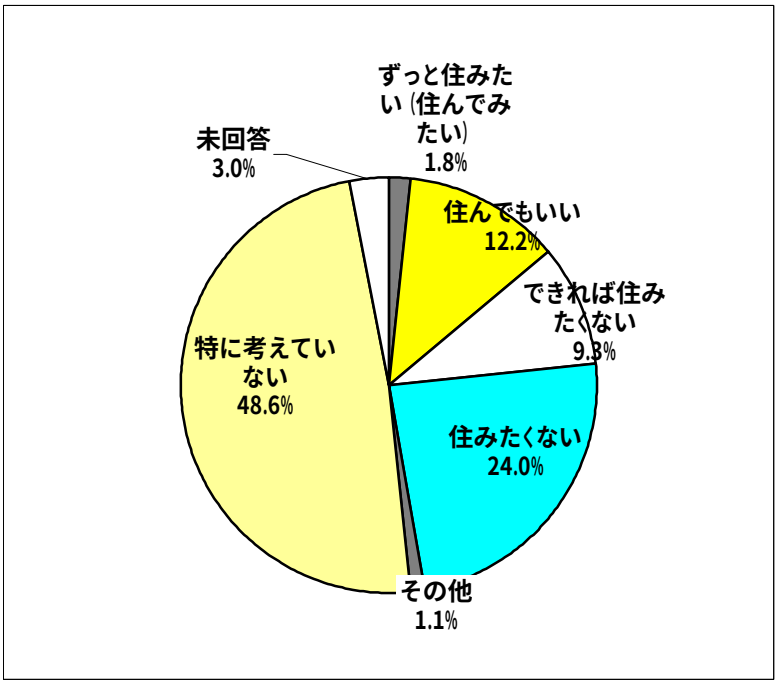
御嶽宿地域再生の取組みを実施するときは、その場所を強く印象付けることが必要である。



案内したい場所	件数	理由
みたけの森	41	自然がいっぱい、きれいだから、見晴らしが良いから、楽しいから、オオタカに会わせる　など
学校	14	通っているところだから、楽しいから　など
中山道	12	きれいだから、歴史があるから、有名だから　など
中山道みたけ館	12	本がたくさんある、ビデオがいっぱい、中山道の歴史が分かるから、落ち着くから　など
願興寺	5	自然豊か、大きい、カッコイイ　など
御嵩町内	4	古風
鬼岩	3	鬼がいた岩だから　など
御嵩駅周辺	2	そこしかない、たまりばだから
鬼の首塚	2	かっこいい、他に案内するところが無い
その他	42	花フェスタ、自宅など
計	137	

＜今後も（または将来）御嵩町に住みたいと思いますか＞

「住みたい」「住んでもよい」が 14%で、「できれば住みたくない」「住みたくない」は 33%であった。それぞれ生活の拠点がある上で、御嵩町という地域を「生活の場」としてどう見ているのかを聞いたもので、「特に考えていない」が半数を占め、普段は何気なく生活し、通学していることが伺える。今後のいろいろな取組みを行い、情報発信していくことにより、まずは「御嵩町」を意識してもらえるようにする必要がある。



[住みたい、住んでもいい理由]

	件数
良いところだから、落ち着く、雰囲気が好き、友達がいる、平和、静かだから	67
自然が多いから	28
何となく、分からない	17
今住んでいるから	15
特になし、未回答	20
合計	147

[できれば住みたくない、住みたくない理由]

	件数
交通が不便、店が少ない、田舎、何もない　など	217
今住んでいるところが良い	41
都会が良い	20
良く知らないから	16
住みたいと思わないから	14
亜炭が埋まっているから、地震が怖いなど	6
特に無い、分からない、その他理由	13
未回答	216
合計	543

＜中山道について知っていること＞

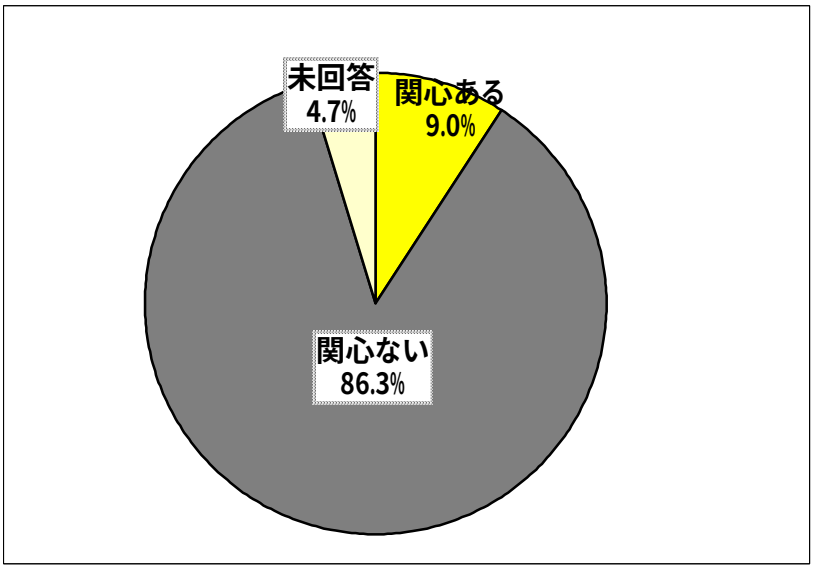
	件数
道、古い、歴史がある、昔からある、新撰組　など	104
五街道の一つ、和宮が通った、江戸に通じる道、江戸時代	37
図書館がある	24
宿場町、昔偉い人が泊まった、昔栄えていた	16
太田宿、美濃加茂	16
東海道	9
ラクダが通った	8
亜炭がある	4
知らない、分からない、特に無し、その他	402
合計	620

＜御嶽宿（御嵩駅周辺）について知っていること＞

	件数
願興寺・お寺がある・蟹薬師	25
歴史が感じられる・古いまち・宿場まち	24
賑わっていた	16
図書館	12
駄菓子屋・お好み焼き屋	8
中山道	4
田舎・自然がいっぱい	3
亜炭	1
鬼の首塚	1
皇女和宮が通った	1
寂れている	1
川がある	1
夏に花火がある	1
祭りがある	1
あまり知らない・知らない	243
特にない	167
その他	46

＜中山道や御嶽宿（御嵩駅周辺）に関心がありますか＞

「関心ある」が９％で、「関心ない」が 87%である。関心あるの理由を見てみると「地元である」などより「歴史に興味がある」「好きだから」が上回っている。また、関心ないの理由では、ほとんどが「分からない・知らない」などで、情報発信次第では十分に関心を持ってもらえる可能性はあることが伺える。

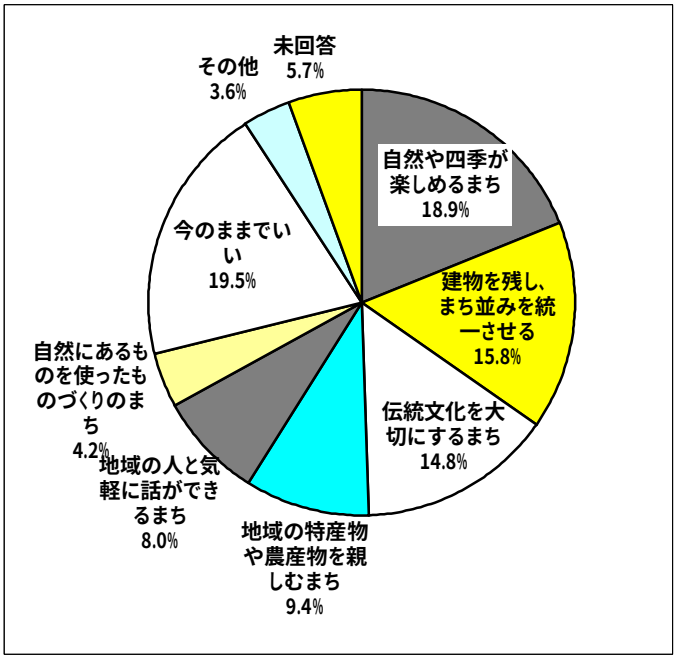


	件数
歴史に興味があるから、好きだから	39
知っているから、地元だから、御嵩人だから	23
もっと知りたい	17
何となく	5
未回答	11

	件数
興味が無い、分からない、関係がない、知らない	472
御嵩に住んでいないから	67
魅力が無いまら、何も無いから　など	38
未回答	338

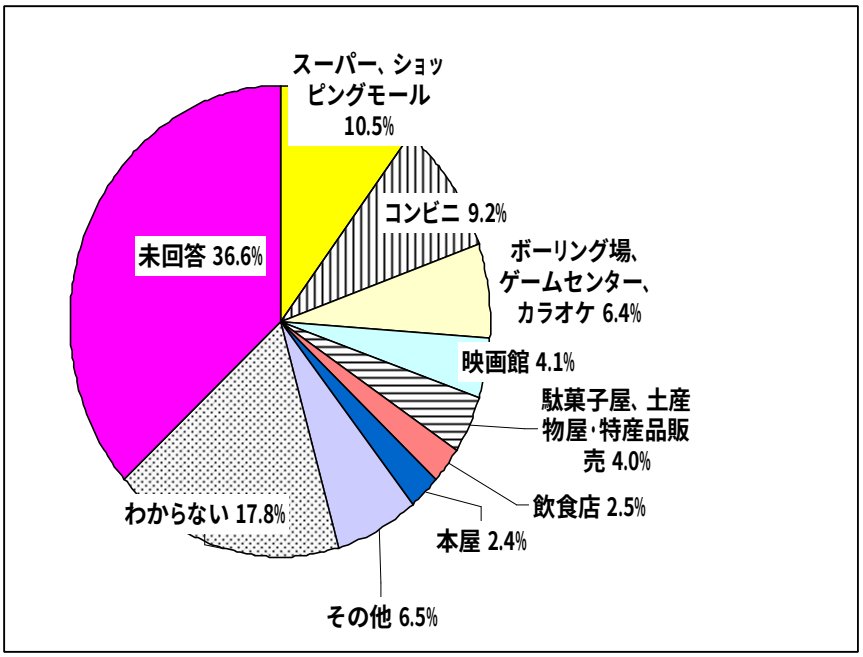
＜魅力ある御嶽宿（御嵩駅周辺）にするためにはどのようなまちにしていくといいと思いますか＞

前設問「友達に紹介するとき、何について話しますか」の問いに対して 25%を超える生徒が「自然・風景」と回答しているが、この設問に対する回答も同様に「自然や四季が楽しめるまち」に 20%弱の生徒が答えている。また、「まち並みを統一させる」「伝統文化を大切にするまち」も 15%前後を占め、歴史や伝統文化のあるまちであるとの認識を持っていることが伺える。その中で、「今のままでよい」という回答も 20%弱あり、現状として大きな問題は抱えておらず、急激なまち並整備は必要ではないという意向も伺える。



＜御嶽宿にあったらいい施設やお店はどんなものですか＞

「スーパー、ショッピング、アウトレット」などとの回答が 10%を超え、現在の人気店への要望はここでもある。また、コンビニや菓子屋、特産品販売などの気軽に入れ、買えるお店への要望もあわせると 13%以上あり、食物販売の店への要望もある。ただ、「わからない」との回答や未回答が 50%を超えており、御嶽宿（御嵩駅）周辺について具体的なイメージがあまりないことも伺える。



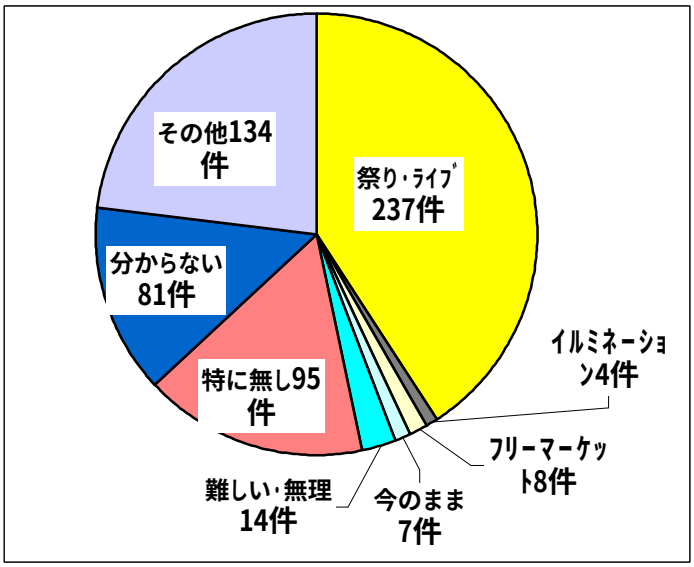
＜御嶽宿（御嶽駅周辺）にどんなイベントや活動があればにぎわうと思いますか＞

現在実施している蟹薬師祭礼やよってりゃみたけ夏まつりのイベントが浸透していることもあり、祭り・ﾗｲﾌﾞで237件の意見があった。また、少数であるが「今のままでいい」や「難しい・無理」などの意見も見られた。

その他の意見としては、「駅の改造」「何か作って持って帰るもの」「試食会」「食べ歩き」「町内かくれんぼ」「静かなところがセールスポイント」などの意見もあった。

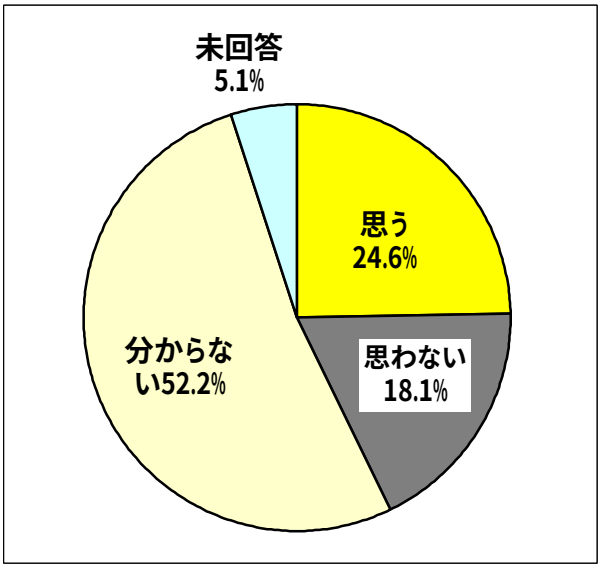
ただ、未回答も482件（全体の45%）あり、分からない81件も含め御嶽宿（御嵩駅周辺）への関心が低いことや具体的な手立てイメージも一方で伺える。

なお、自由記述のため件数で表示した。



＜御嶽宿（御嵩駅周辺）で今後、人々がにぎわう活動が行われれば参加してみたいと思いますか＞

「思わない」と回答をしたのが18.1%であった。逆に「思う」が24.6%になっている。さらに「分からない」が52.2%であり、活動の内容やきっかけにより参加し、一緒になって活動を進めるパートナーとなる可能性があると伺える。



＜まとめとして＞

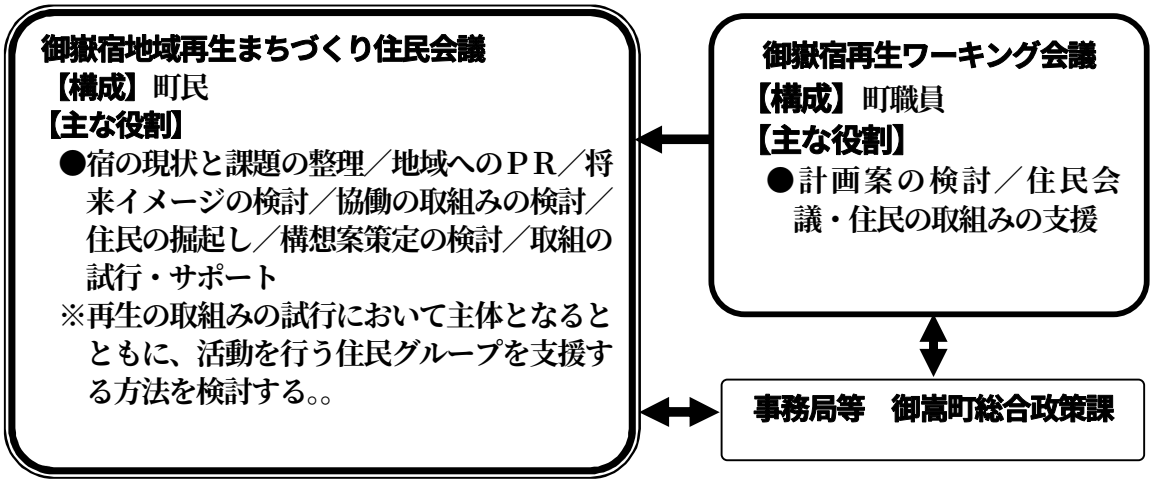
本調査によって高校生が、御嵩町のイメージをどのように抱いているか、ボランティア活動への意識をどのように持っているかが明らかとなった。地域再生の１つの担い手であるボランティアの育成・支援が必要であるが、「今後のボランティア活動への参加の有無」の設問で、「思う」「分からない」が合計で 82.1%もあり、その内容や手法、支援により参加する可能性が高いといえる。また、放課後や休日の過ごし方として、自宅や友達と過ごすことが半数を超えていることから、これらの時間の一部を利用したボランティア活動も可能と考えられる。ただし、「自主性・主体性（自らすすんで行動する）」「社会性・連帯性（ともに支えあい、学びあう）」がボランティア活動の基本の１つであることを十分に踏まえる必要はある。

いずれにしても、御嵩町の「自然・風景」や「歴史」について３人に１人が関心を示し、御嵩町の特徴として強くアピールしていくことにより効果が期待できる。

参考資料3　構想の検討体制

（1）構想の検討体制

構想の策定にあたっては、御嵩宿再生が将来的に地域住民や町民が主体となることを目指し、御嶽宿地域再生まちづくり住民会議 21 名を中心に、町民参加で検討を進めました。



（2）御嶽宿地域再生まちづくり住民会議名簿

御嶽宿地域再生まちづくり住民会議（敬称略）

生駒親之	伊崎公介	大澤典子	小川文甫	奥村桂志	兼松三郎
亀井和彦	亀谷充市	桑下清孝	鈴木富雄	須田　宏	大東岳司
高屋敦子	舘きみ江	寺尾光彦	広間光男	藤掛義彦	堀田照子
前田晃造	武藤哲生	安田香苗	（五十音順）		

参考資料４　構想の主な検討経過

御嶽宿地域再生まちづくり住民会議を中心にこの構想を策定するまでに、検討会議、視察、調査、イベントなど具体的取り組みをこの２年ほどで 40 回以上にわたり行ってきました。そのうち、主な経過について掲載します。

7 月 28 日	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議	辞令交付・目的、スケジュールの説明 グループワーク（御嶽宿・中山道について）
9 月 2 日	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議 （御嶽宿ワーキング会議）	御嶽宿周辺まち探検 （地域の資源や課題などを見つけ）
9 月 13 日	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議 （御嶽宿ワーキング会議）	次の２つのグループに分かれ議論の実施 ・イベント内容の検討（まち探検による資源や課題の活用や解決方法のためのもの） ・アンケート調査内容検討（異世代の意識調査、幅の広い年代層の発掘）
9 月 25 日	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議 （御嶽宿ワーキング会議）	アンケート調査内容の検討
9 月 30 日	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議 （御嶽宿ワーキング会議）	先進地視察研修 ＮＰＯ法人グランドワーク三島へ視察
10 月～11 月	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議 （御嶽宿ワーキング会議）	試行イベント（御嶽宿往来）の内容検討を次の３つに分かれて実施 ・ウォーキンググループ ・御嶽宿グループ ・広報宣伝グループ
11 月 23 日	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議 （御嶽宿ワーキング会議）	御嶽宿往来～みたけじゅくうぉーく～実施
12 月～3 月	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議 （御嶽宿ワーキング会議）	次の３つに分かれて検討していくこととする。 構想づくり部会（調査班） 構想づくり部会（取組アイディア班） 住民活動検討部会
12 月～2 月	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議 （御嶽宿ワーキング会議）	住民アンケート調査、高校生アンケート調査実施
1 月 18 日	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議 （御嶽宿ワーキング会議）	御嶽宿地域の中心的役割を果たした願興寺についての学習会

参考資料

3月22日	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議 （御嶽宿ワーキング会議）	先進地視察研修 恵那市岩村町　まちづくり団体調査
3月28日	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議 （御嶽宿ワーキング会議）	１つ１つ出された取り組みに対し、誰がどう取組んでいくのかを検討
5月18日	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議	構想づくりの方向の確認
6月25日	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議	御嶽宿活性化に向けての具体的な取組の協議 （空家などの活用についての意見交換）
7月24日	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議	構想の全体像についての協議（概要と検討課題）
8月4日	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議	よってりゃあみたけ～夢いろ街道宿場まつり～参加
9月～2月	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議	構想の全体像についての協議 具体的施策の進め方づくり、検討
2月5日	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議	構想の骨子、全体最終確認
3月25日	御嶽宿地域再生まちづくり住民会議	構想の策定

この御嶽宿地域再生構想は、岐阜県からの補助金を受けて策定したものです。

平成２０年3月２５日

御嵩町長　渡辺公夫